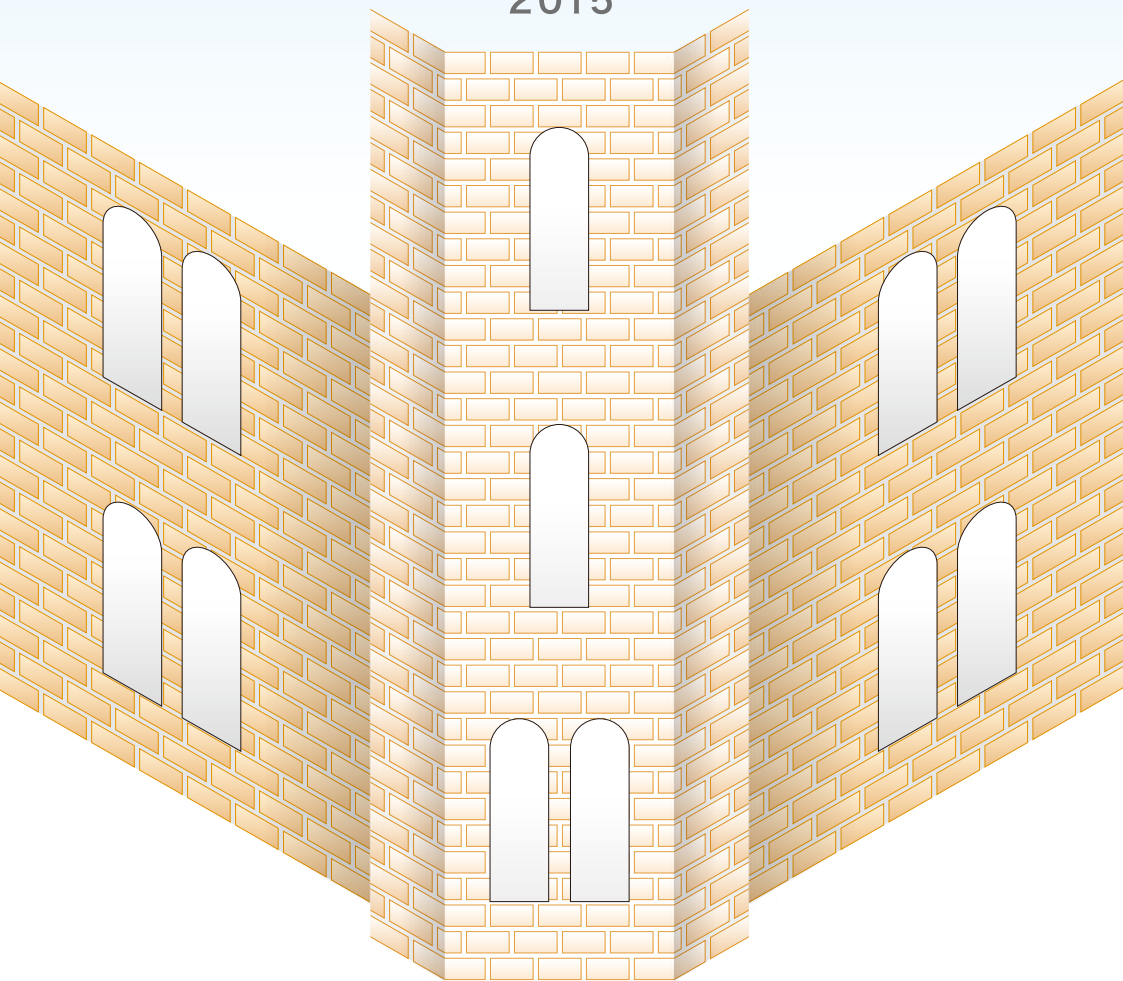


# 同志社 大 学

データブック  
2015



## 同志社大学設立の旨意 (抜粋)

明治七年の末、胸中一片の宿志を齎し、十余年来  
夢寐の間に髣髴たる我が本国に帰着せり。

明治八年十一月二十九日、同志社英学校を設立し  
たり。是れ即ち現今同志社の設立したる創始なり。

斯くの如くにして同志社は設立したり、然れども  
其目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみ  
ならず、其徳性を涵養し、其品行を高尙ならしめ、  
其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能  
ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕  
に運用するの人物を出さん事を勉めたりき。而して  
斯くの如き教育は、決して一方に偏したる智育にて達  
し得可き者に非ず。

唯だ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基  
督教主義の道徳に存することを信じ、基督教主義を  
以て徳育の基本と為せり。

吾人は政府の手に於て設立したる大学の実に有益  
なるを疑はず。然れども人民の手に拠って設立する  
大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信す。

其生徒の独自一己の気象を發揮し、自治自立の人  
民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所  
たるを言はずば非ず。

一国を維持するは、決して二、三英雄の力に非ず。  
実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある  
人民の力に拠らざる可からず。是等の人民は一国の  
良心とも謂ふ可き人々なり。而して吾人は即ち此の  
一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。吾  
人が目的とする所実に斯くの如し。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄

### 現代語訳

#### 「同志社大学を設立する目的」(抜粋)

明治七年の末に長年抱いていたひとつの  
志を胸に秘めて、十年以上ものあいだ夢に  
まで思い浮かべたわが国に帰国した。

ただちに明治八年十一月二十九日に同志  
社英学校を設立した。これが現在の同志社  
設立の始まりなのである。

このようにして同志社は設立されたが、  
その目的はただ単に普通の英学を教えるだ  
けでなく、徳性を磨き、品性を高尙にし、精  
神を正しく強めるように努め、ただ技術や  
才能のある人物を育成するだけでなく、い  
わゆる「良心を手腕に運用する人物」[良心  
の全身に充滿したる丈夫]を産み出すこと  
に努めてきた。しかもこのような教育は、一  
方に片寄った智育だけでは決して達成でき  
るものではない。

それはただ神を信じ、真理を愛し、他者  
に対する思いやりの情に厚いキリスト教の  
道徳によらなければならないと信じて、キ  
リスト教主義を徳育の基本とした。

政府の手で設立された大学が実に有益  
なのは疑いない。けれども国民の手で設立  
された(私立)大学が、まことに大きな感  
化を国民に与えることも事実である。

学生が自分独自の気質を發揮し、自治、  
自立の国民を養成する点は、これこそ私立  
大学が持っている特性であり長所である、  
と信じて疑わない。

一国を維持するのは、決して二、三の英  
雄の力ではない。実に一国を形成する、教  
育があり、知識があり、品性の高い人た  
ちの力によらなければならない。これらの人  
たちは「一国の良心」とも言うべき人たち  
である。そして私たちはこの「一国の良心」  
ともいうべき人々を養成したいと思う。  
私たちの目的は実にここにある。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄  
〔現代語で読む新島襄〕から〕

## Doshisha College Song (Words by W.M.Vories, 1908)

One purpose, Doshisha, thy name  
Doth signify; one lofty aim:  
To train thy sons in heart and hand  
To live for God and Native Land.  
Dear Alma Mater, sons of thine  
Shall be as branches to the vine;  
Tho' through the world we wander far and wide,  
Still in our hearts thy precepts shall abide!

### 対訳 (児玉実英 訳)

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。  
その学徒の精神的、肉体的に、  
神のため、祖国のため、生きんという  
一つの崇高な目的を。  
親愛なる母校よ、同志社の学徒は、  
ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。  
たとえ、世界くまなく、広くはるかに、  
われらさまよつとも、汝の教訓は、  
われわれの心に永遠に生き続けることであろう。

## 同志社徽章 制定年 / 1893 (明治26) 年 デザイン / 湯浅吉郎 (半月)



正三角形を3つ寄せたこのマークは、国あるいは土を意味するアッシリア  
文字「ムツウ」を圖案化したもの。考案者の湯浅半月は、本学が生んだ詩人  
(代表作『十二の石塚』)であり古代オリエント学者である。制定された当時、  
半月は本学の神学校教授であった。制定以来、知・徳・体の三位一体ある  
いは調和をめざす本学の教育理念をあらわすものと解釈されている。

### School Color of Doshisha

スクール・カラーはPurple&White (紫と白) の2色である。紫はロイヤル・パープルで日本の古代紫  
と江戸紫の中間色に相当する。創立者新島襄が学んだ米国アーモスト大学のスクール・カラーと同色  
である。社旗は、地を紫に、徽章を白で抜く。

## Contents

同志社大学設立の旨意	1	奨学金	14
カレッジング、徽章	2	国際交流	15
同志社の原点・沿革	3	キャリア形成支援	17
同志社大学組織図	5	産官学連携・社会貢献、学術資料について	18
学部・学科INDEX	6	財務状況	19
学生数・教職員数	9	建物紹介	20
志願者数・合格者数	10	今出川キャンパスマップ	21
教育	11	京田辺キャンパスマップ	23
研究	12	アクセスマップ	25
学生生活サポート	13		

# 同志社の原点

新島襄は140年前の日本において、「良心」と「自由」に満たされた学園を開拓する一方で、高尚な志の大切さを訴え続けました。

## 新島襄の志

新島襄（1843～1890）は、21歳で幕末の日本から密出国して渡米しました。人びとが奴隷扱いされ、息苦しい封建社会に束縛されることに我慢ができず、自由と人権を求めての冒険でした。

留学中、キリスト教徒となった新島は、しだいにひとつの夢を膨らませます。「自由」と「良心」に立つ人間を養成するキリスト教主義教育を日本でも実現したい、という夢です。

10年ぶりに帰国した新島は、さっそく京都に同志社英学校を創立しました。同志社とは、「志を同じくするものが創る結社」です。その原点は、もちろん新島の志です。

Doshisha College SongにもOne purposeとあります。これも「ひとつの志」、「同じ志」、すなわち「同志」を意味します。



新島が脱国し、渡米のために乗船したワイルド・ローヴァー号（油絵・チャタム歴史協会所蔵）



新島の脱国扮装

## 「自由」と「良心」をベースに

新島の夢は、「良心」と「自由」に満たされた学園と社会の実現です。彼は、日本が自由で民主的な近代国家になるためには、一人ひとりの個性と人格が十分に尊重されることが大事だと考えました。だから、同志社においても彼は生徒一人ひとりの人格を尊重しました。生徒はかけがえのない「同志」でした。

新島は「遺言」の中でも、「学生を丁重に対応すること」を教職員に望みました。この遺訓は、今も本学では大事に守られています。

新島は、大学昇格を目指しながらも、募金運動の途中、志半ばで倒れました。

## 志の実現には200年

未完に終わった新島の遺志は、教員たちなどによって引き継がれ、死後22年にしてようやく同志社大学が実現しました。

生前、新島は勝海舟に「大学の完成には200年

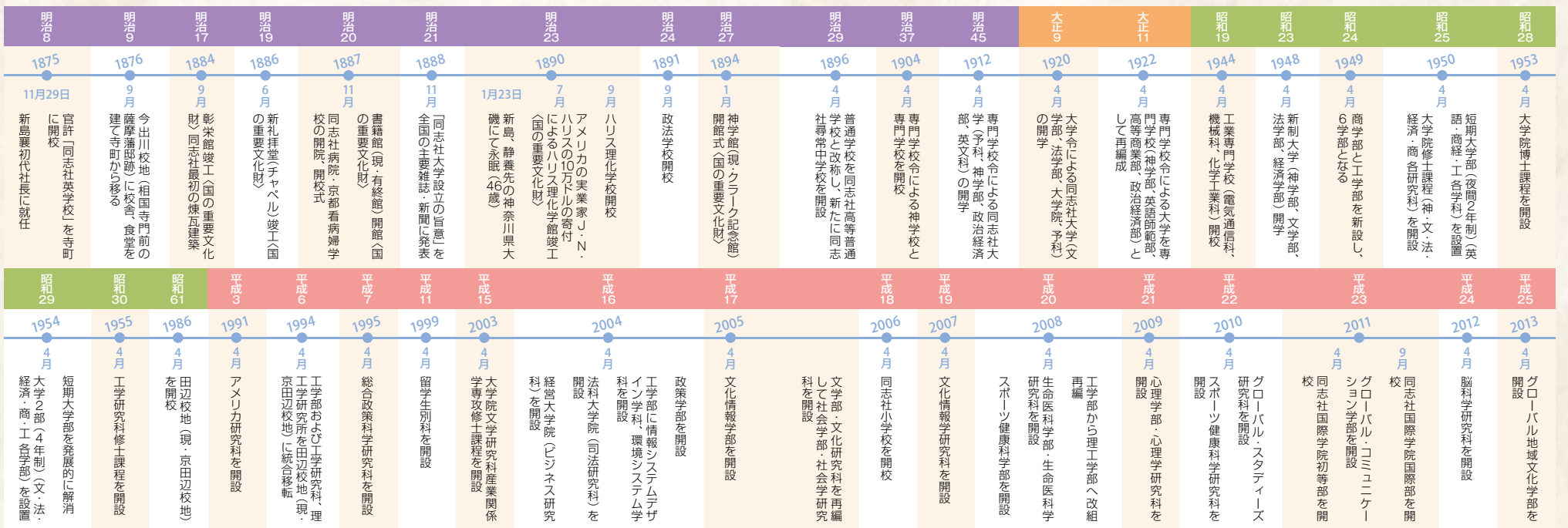


新島 襄  
(1843～1890)

と答えています。すでに創立140年を経た本学ですが、いまでも新しい学部や大学院の設置を始め、先端的教育・研究体制の整備や充実、組織の改編などに積極的に取り組んでいます。まだまだ発展途上の学園だからです。

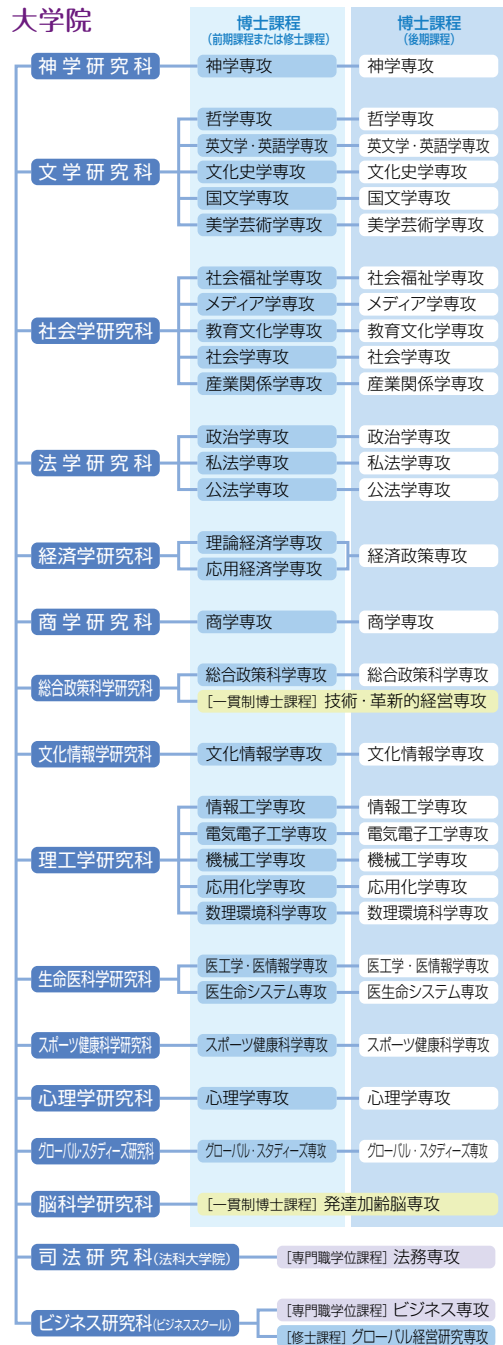
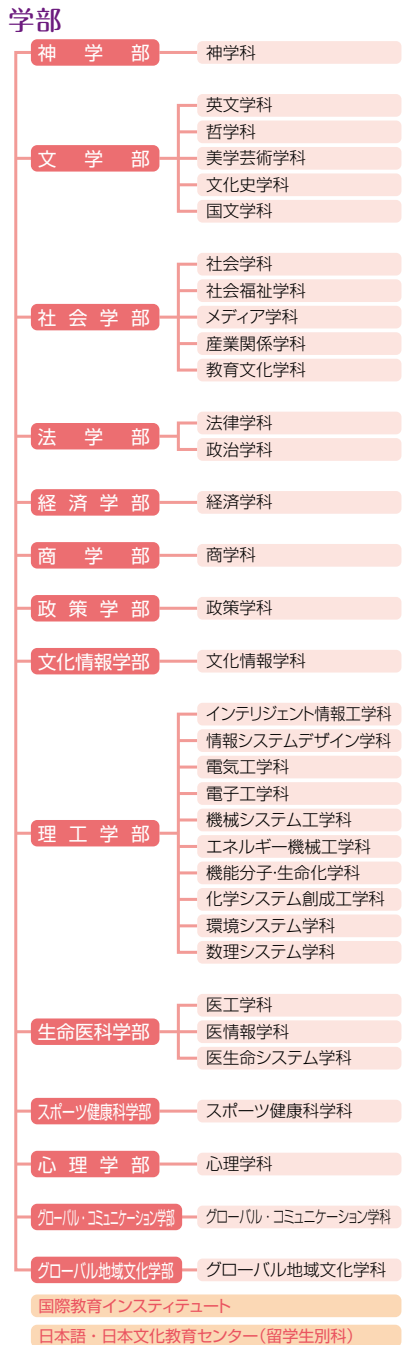
これからも、教職員や卒業生はもちろん、学生一人ひとりが、同志社の「原点」である新島の志を中軸にした「同志」となって、彼が思い描いた大学の完成を目指します。

## 沿革



# 同志社大学組織図

http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/organization/university.html



# 学部・学科INDEX

http://www.doshisha.ac.jp/academics/undergrad/list.html

	神学部	文学部	社会学部	法学部
<b>設立年</b>	1875年同志社創立以来の神学研究機関	1875年同志社創立以来の英文学科をはじめ、5学科で構成	2005年文学部から独立し、新たに5学科でスタート	1891年開校の政法学校政治科が前身
<b>学科(1学年定員)</b>	神学科 (60)	英文学科 (300) 哲学科 (65) 美学芸術学科 (65) 文化史学科 (120) 国文学科 (120)	社会学科 (82) 社会福祉学科 (93) メディア学科 (83) 産業関係学科 (82) 教育文化学科 (75)	法律学科 (650) 政治学科 (200)
<b>主たる校地</b>	今出川	今出川	今出川	今出川
<b>専任教員数(注1)</b>	19	67	48	60
<b>学生数(女子)(注1)</b>	266 (143)	3,039 (1,958)	1,943 (1,052)	3,735 (1,457)
<b>学部の特色</b>	1.キリスト教、イスラム、ユダヤ教の3つの一神教を学ぶ世界有数の教育環境 2.「文明の共存」を目指して、国際的に活躍できる人物を養成	1.日本文化伝統の地、京都で本物の文化に触れ、生きた学びを体感 2.歴史ある少人数教育による手厚い教育指導を実施	1.人間と社会の関わりを焦点に、社会現象を理論的に解明 2.現場の体験を重視した実践的な教育、フィールドワークと実習が充実	1.企業法務、ジャーナリストなど将来の専門キャリアのための実践的教育を展開 2.大学院との提携による高度な専門教育を展開
<b>取得できる免許・資格(注2)</b>	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(宗教) ●高等学校教諭一種(宗教) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(英語、国語、社会) ●高等学校教諭一種(英語、国語、地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、福祉) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など
<b>関連のある主な資格</b>	牧師 など	考古学技師 など(注4)	社会調査士、社会福祉士、精神保健福祉士 など(注4)	弁護士、裁判官、検察官、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、宅地建物取引主任者、社会保険労務士 など
<b>卒業後の主たる進路①(就職)</b>	●教育・福祉 ●牧師 ●大手企業(サービス、商社など) ●国際機関 ●国家・地方公務員	●教育・福祉 ●大手企業(金融、出版、サービスなど) ●シニアタレント ●国家・地方公務員 ●博物館学芸員 ●図書館司書 ●大学院進学	●教育・福祉 ●国家・地方公務員 ●シニアタレント ●大手企業(マスコミ、サービス、銀行、保険、証券など)	●弁護士、裁判官、検察官 ●国家・地方公務員 ●ジャーナリスト ●大手企業(金融、流通、メーカーなど)
<b>卒業後の主たる進路②(大学院進学)</b>	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科 同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)			

注1 教員数、学生数は2015年4月末現在  
注2 小学校教諭一種は神戸親和女子大学通信教育部(男女共学)との連携による  
注3 取得できる教員免許の教科は学科によって異なる  
注4 関連する資格は学科によって異なる

# 学部・学科INDEX

	経済学部	商学部	政策学部	グローバル地域文化学部	文化情報学部	理工学部	生命医科学部	スポーツ健康科学部	心理学部	グローバルコミュニケーション学部
設立年	1891年開校の政法学校理財科が前身	1922年開校の専門学校高等商業部が前身	2004年度開設。政治・行政学、法学、経済学、組織論の4領域を統合した学部	2013年度開設の新学部。グローバルな視点から各地域の諸問題を見る眼を養う	2005年度開設。文理融合の学部	1890年開校のハリス理化学校が前身。2008年度改組再編	2008年度開設。工学・医学・理学の融合的なフィールドにおいて「生命」を対象とした先端的教育研究を行う	2008年度開設。多角的かつ科学的な視点でスポーツと健康の関係について学修する	2009年度開設。専門的な講義および少人数クラスにおける演習・実習を通じて、高度な知識と技能を身につける	2011年度開設。高度な外国語運用能力とともに、幅広い教養、異文化理解力を養う
学科(1学年定員)	経済学科 (850)	商学科 (850)	政策学科 (400)	グローバル地域文化学科 (180)	文化情報学科 (280)	インテリジェント情報工学科 (80) 情報システムデザイン学科 (80) 電気工学科 (75) 電子工学科 (85) 機械システム工学科 (90) エネルギー機械工学科 (70) 機能分子・生命化学科 (80) 化学システム創成工学科 (80) 環境システム学科 (50) 数理システム学科 (40)	医工学科 (90) 医情報学科 (90) 医生命システム学科 (60)	スポーツ健康科学科 (210)	心理学科 (150)	グローバル・コミュニケーション学科 (150)
校址	今出川	今出川	今出川	今出川	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺
専任教員(注1)	56	49	39	53	30	115	38	24	19	28
学生数(注1)	3,865 (1,121)	3,690 (1,489)	1,708 (806)	579 (397)	1,285 (598)	3,398 (477)	1,054 (367)	876 (247)	679 (422)	616 (408)
学部の特色	1.経済学への理解を深め、論理的思考や政策立案能力を養成 2.充実した情報教育により社会で活躍できる人物を養成	1.公認会計士、税理士などの合格者数は全国トップレベル 2.さまざまな分野の実務家による実践的な授業を展開	1.自ら問題を発見し、解決できる能力を育成 2.多角的な視点で、政策課題を学ぶ専門教育を展開	1.それぞれの地域の社会的、文化的特質や、地球規模で起こるさまざまな課題にグローバルな視点から取り組める人材を育成 2.ヨーロッパ、アジア、太平洋、アメリカの3つのコースのいずれかに属して各地域の言語を運用する能力も修得	1.人間の営みである「文化」を分析し、新たな見方を発見 2.高度なデータ分析能力を修得し、情報を使いこなせる能力を育成	1.次世代の技術革新に対応するため、理工学の基礎を徹底的に教育 2.世界トップレベルの施設を完備し、大学院進学率は50%以上	1.工学と医学の融合分野における先端科学領域で活躍するエンジニアや研究者を育成 2.工学、医学、基礎生物学など多様な学問との融合的教育研究	1.人々の健康増進、スポーツの社会的発展に貢献できる人材を育成 2.学内外の研究・医療機関と連携し、充実した研究環境を提供	1.3つの履修コースによる体系的で専門性の高い教育を展開 2.伝統の少人数教育のもと実習・実習の充実、社会にリンクするプロジェクト型教育などにより実践的問題解決能力を育成	1.卓越した実用的外国語運用能力を育成1年間のStudy Abroad必修(英語コース、中国語コース) 2.グローバル社会でfacilitator, negotiator, administratorとして活躍できる人物を育成
取得できる免許・資格(注2)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、商業) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、社会) ●高等学校教諭一種(数学、情報、工業) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、理科) ●高等学校教諭一種(数学、理科、情報、工業) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、理科) ●高等学校教諭一種(数学、理科) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(保健体育) ●高等学校教諭一種(保健体育) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●図書館司書 ●博物館学芸員
関連のある主な資格	公認会計士、税理士、中小企業診断士、IT/スポーツ、基本情報技術者、ネットワークスペシャリスト など	公認会計士、税理士、中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャル・プランナー など	公認会計士、税理士、中小企業診断士、司法書士、行政書士、宅地建物取引主任者、社会保険労務士 など	TOEFL®テスト、TOEIC®テスト、実用英語技能検定(英検)、IELTS、ドイツ語技能検定試験、Geothie Zertifikat、実用フランス語技能検定試験、DELTA、中国語検定試験、HSK、スペイン語技能検定、DELE、ロシア語能力検定試験、「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験 など	社会調査士、情報処理技術者 など	電気主任技術者、電気工事士、陸上無線技術士、弁理士 など(注4)	弁理士、技術士、情報処理技術者 など	健康運動指導士、各種スポーツ指導者資格、障害者スポーツ指導員 など	認定心理士 など	TOEFL®テスト、TOEIC®テスト、実用英語技能検定(英検)、国際連合公用語英語検定試験(国連英検)、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、J.TEST 実用日本語検定、BJTビジネス日本語能力テスト など
卒業後の主な進路(就職)(注1)	●大手企業(金融、メーカー、流通、マスコミなど) ●シンクタンク、コンサルティング ●国家・地方公務員 ●公認会計士、税理士	●公認会計士、税理士 ●大手企業(銀行、保険、証券、コンサルファイン、流通など) ●企業経営者 ●国家・地方公務員	●大手企業(企画・国際・人事部門など) ●国家・地方公務員 ●NPO、NGO ●国際機関	●海外展開している企業(メーカー、商社、旅行会社など) ●国家・地方公務員 ●国際担当 ●国際交流・援助の機関(NPO・NGOを含む) ●国内外の大学院進学	●大手企業(銀行、商社などの情報分析部門) ●システムエンジニア ●シンクタンク ●博物館学芸員 ●大学院進学	●大手企業(通信、電子部品、半導体、機械、電気、自動車、化学などの技術部門・研究部門) ●大学院進学 ●国際機関 ●国家・地方公務員	●大手企業(医療機器、自動車、機械、電気、電子機器、製薬、通信情報、化学など) ●大学院進学 ●企業・公的研究機関の研究・開発職 ●教育・福祉関係	●大手企業(医療、健康、食品、スポーツ関連) ●中学・高等学校保健体育教員 ●スポーツ振興の自治体職員 ●プロスポーツマネジメント ●大学院進学	●大手企業(メーカー、サービス、金融、商社、マスコミ) ●教育、医療、福祉 ●国家・地方公務員 ●大学院進学	●大手企業(商社、金融、メーカー、マスコミ、航空、海運、旅行など) ●NPO、NGO ●通訳、翻訳家 ●大学院進学
卒業後の主たる進路②(大学院進学)	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科					同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)				

注1 教員数、学生数は2015年4月末現在  
注2 小学校教諭一種は神戸親和女子大学通信教育部(男女共学)との連携による  
注3 取得できる教員免許の教員は学科によって異なる  
注4 関連する資格は学科によって異なる

# 学生数・教職員数

http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/students\_total.html  
 http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/basic\_data/new.html

## 所属別学生数

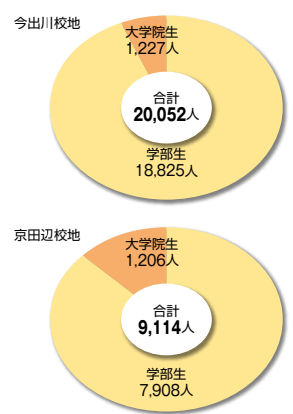
2015.4.30現在 (単位:人)

学部・研究科名	学部生(女子)	大学院生(女子)前修士	大学院生(女子)後	大学院生(女子)一類
神学部・神学研究科	266 (143)	46 (21)	29 (11)	—
文学部・文学研究科	3,039 (1,958)	64 (34)	58 (26)	—
社会学部・社会学研究科	1,943 (1,052)	49 (38)	61 (30)	—
法学部・法学研究科	3,735 (1,457)	126 (45)	36 (14)	—
経済学部・経済学研究科	3,865 (1,122)	20 (9)	18 (8)	—
商学部・商学研究科	3,690 (1,489)	32 (19)	9 (2)	—
政策学部・総合政策科学研究科	1,708 (806)	117 (68)	91 (33)	35 (10)
文化情報学部・文化情報科学研究科	1,285 (598)	30 (13)	15 (6)	—
理工学部・理工学研究科	3,398 (477)	765 (72)	69 (10)	—
生命医科学部・生命医科学研究科	1,054 (367)	226 (54)	18 (5)	—
スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科	876 (247)	15 (2)	6 (3)	—
心理学部・心理学研究科	679 (422)	17 (9)	23 (15)	—
グローバル・コミュニケーション学部	616 (408)	—	—	—
グローバル地域文化学部	579 (397)	—	—	—
アメリカ研究科	—	—	4 (1)	—
グローバル・スタディーズ研究科	—	70 (41)	70 (36)	—
ビジネス研究科	—	31 (14)	—	—
脳科学研究科	—	—	—	22 (12)
小計	26,733 (10,943)	1,608 (439)	507 (200)	57 (22)
司法研究科	—	143 (51)	—	—
ビジネス研究科	—	118 (36)	—	—
小計	—	261 (87)	—	—

※理工学研究科は、2012年度に工学研究科より名称変更したため、工学研究科2011年度以前生は理工学研究科生として算出している  
 ※アメリカ研究科は、2010年度にグローバル・スタディーズ研究科に改組したため、アメリカ研究科は2009年度以前生、グローバル・スタディーズ研究科は2010年度以降生の学生数である

## 校地別学生数

2015.4.30現在



## 教職員数

2015.5.1現在

教員数 (単位:人)			職員数 (単位:人)		
専任教員	797	嘱託講師	1,529	合計	2,326
専任職員	336	非常任職員	538	合計	874

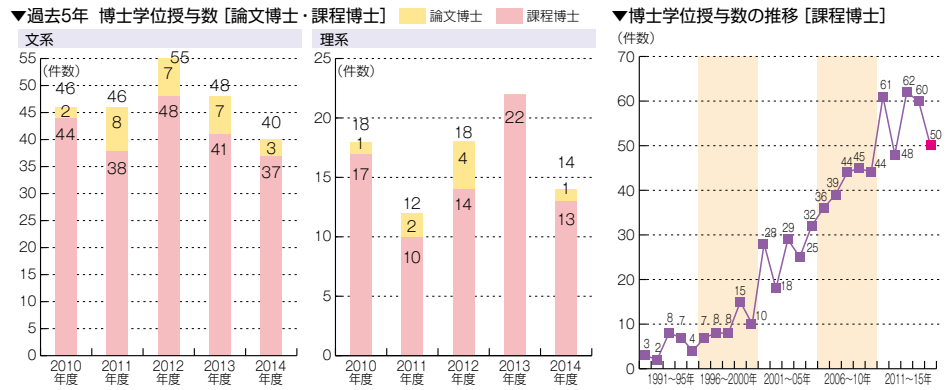
## 学位授与数

2015.3.31現在

### 2014年度 学部卒業生数・大学院修了者数

上記の数は春学期学位授与者を含む。(単位:人)

学部	神	文	社会	法	経済	商	政	文化情報	理工	生命医科	スポーツ健康	心	ア	司法	ビジネス	合計														
学部	82	341	54	72	121	116	0	89	108	98	72	650	225	883	886	446	262	875	275	146	164	114	—	—	—	—	—	—	6179	
大学院	11	704	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	737
博士(術)修士	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39	
博士(後)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
一貫制	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	
専門職	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	

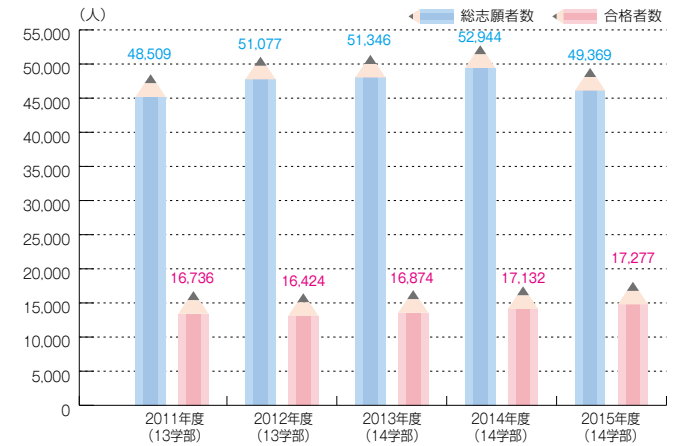


# 志願者数・合格者数

http://www.doshisha.ac.jp/admissions\_undergrad/entrance\_exam.html

## 入学試験(一般選抜・センター利用入試) 総志願者・合格者数<推移グラフ>

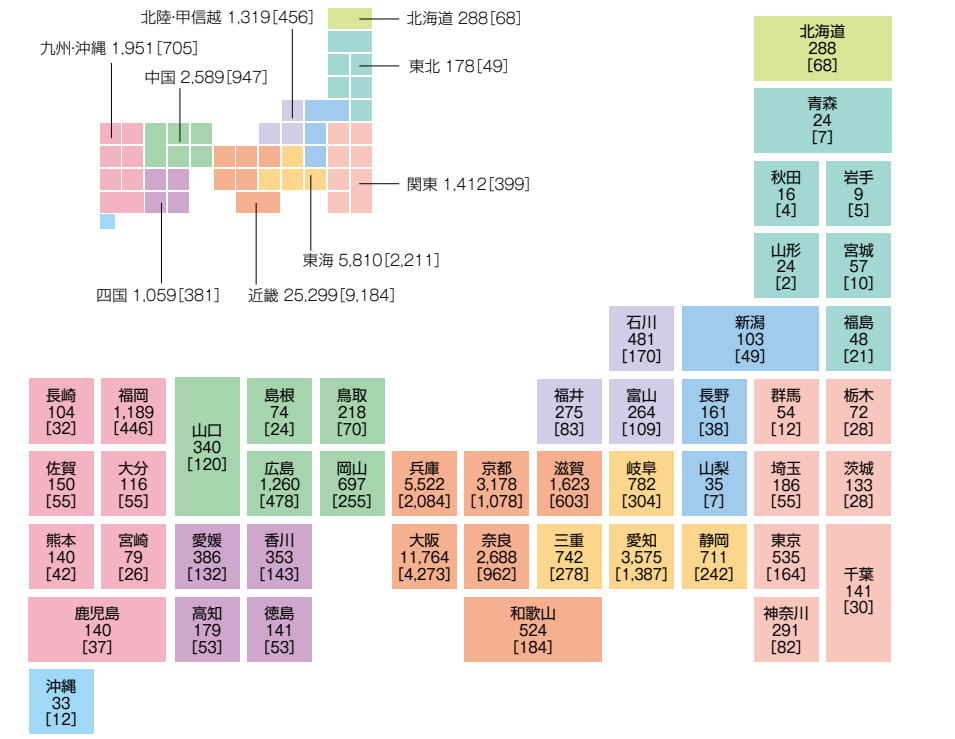
本学では、一般選抜入学試験として全学部日程(理系・文系)と学部個別日程の2つの日程を設けており、両日程の併願により、同一学部・学科・コースを2回受験できるシステムとしています。毎年、学部を問わず受験回数が多くなると合格率が高くなっており、本学の入試問題が学部によって出題傾向や難易度などに大きな差がないことがその要因であると考えられます。また、地方試験会場として全国17都市で受験が可能となっています。



## 2015年度 一般選抜入学試験 志願者・合格者数<都道府県別>

2015.3.31現在 (単位:人)

※[ ]内の数字は合格者数を表します。



# 教育

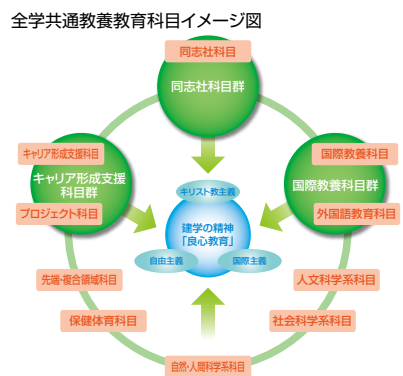
[全学共通教養教育センター] <http://cgie.doshisha.ac.jp/>  
[プロジェクト科目] <http://pbs.doshisha.ac.jp/>  
[国際化拠点整備事業] <http://www.doshisha.ac.jp/international/organization/network.html>

## 全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、全ての学部学生を対象とした共通の教養教育科目のことで、「キリスト教主義」「自由主義（自治自立の精神）」「国際主義」という本学の教育理念に基づき、充実した科目を開発しています。

近年では、英語の習熟度別クラス編成や、TOEFLスコアアップのための正課科目「Intensive Courses for TOEFL」の開講、海外インターンシップクラスの設置など新たな取組みを積極的に進めており、グローバル人材の育成に努めています。

さらに、2016年度に向けては、高度な英語力と教養を身に付け、幅広い視野をもって多角的に物事を思考し、グローバルな分野で活躍できる人物を育成することを目的とした全学的なプログラム「グローバル・リベラルアーツ副専攻（仮称）や、英語で行う授業の履修や海外留学を可能にすることで及びグローバルな分野で活躍できる英語力の修得を目的とした「同志社英語集中プログラム」を検討しています。



## プロジェクト科目

講義スタイルとは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング（PBL）を基本とする授業科目、全学共通教養教育科目「プロジェクト科目」を2006年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は地域社会や企業の方々からテーマをご提案いただき、地域社会や企業がもつ「教育力」を大学の正規の教育課程の中に導入することによって、学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力など、いわば学生の総合的人間力を養成することを目的としています。

テーマ  
2015年度  
採択（抜粋）

- 観光都市京都の新土産 ～世界に発信する新土産～
- 同大生「GLOBAL」プロジェクト ～国際協力と地域社会貢献
- 絵本百花～最愛の1冊に出会うプロジェクト～
- 京都の伝統織物をつなぐ～織物文化ビジネスプロジェクト～
- プロスポーツの集客・チケット販売の実践で学ぶマーケティング
- 災害に強い地域循環型共生コミュニティの実現
- 京都発！補助犬ガイドブック作成プロジェクト
- 子供が遊びながら遊べる知育玩具の企画立案
- 東洋医学で京田辺を健康にするプロジェクト
- 空き店舗を活用した地域活性化Ⅱ ～風が起すムーブメント～

## 国際連携推進機構

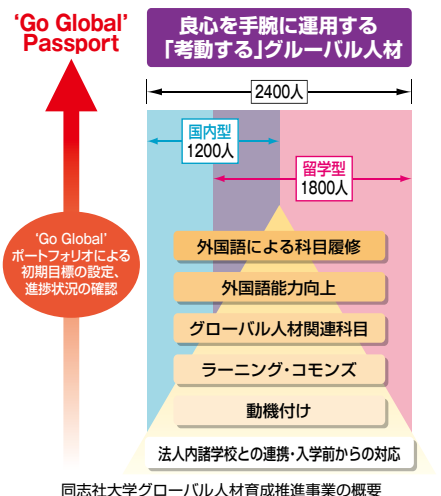
### ◆「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（グローバル30）」の事後評価結果と今後の展開

大学の機能に応じた質の高い教育の提供と、海外の学生が我が国に留学しやすい環境を提供する本事業採択を機に、英語で学位を取得できるプログラムの開発や留学生への支援・環境整備を推し進めた成果として、本学の留学生数・派遣学生数ともに飛躍的に増加し、当初掲げた「国際的教育研究拠点の形成」に向けての足掛かりを掴むことができました。5年（2009～2013年度）の補助期間は終了となり、2015年3月の事後評価では2011年の中間評価に引き続き、最高評価の「S」を取得しました。今後も大学及び日本の国際化を推進していきます。

### ◆「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援（Go Global Japan）」の更なる取組推進

世界を舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を支援する本事業にも採択された本学は、在学中の科目履修や様々な経験・出会いを通じて、外国語運用能力や専門教育によって培われる知識、多様な価値観を受容する心などを身に付けた上で、「良心を手腕に運用する」ことのできる人物を養成するプログラムや支援体制の構築を積極的に進めています。

グローバル30を通じて構築したサポート体制や学内環境とGo Global Japanでの取組を基に、世界中で活躍できる人物の養成を通じて、グローバル化社会に貢献していきます。



同志社大学グローバル人材育成推進事業の概要

# 研究

<http://www.doshisha.ac.jp/research/index.html>

## 研究開発推進機構

### 先端的教育研究拠点

卓越した教育研究拠点またはこれに相当する先端的教育研究拠点形成事業の中核となる5つの研究センターで構成されます。

2015.4.1現在

先端的教育研究拠点一覧

- 神教学際研究センター
- 技術・企業・国際競争力研究センター
- エネルギー変換研究センター
- ライフリスク研究センター
- 赤ちゃん学研究センター

### 研究センター（群）

現代的な応用研究の方向性を切り拓くとともに、大学院の研究教育と連携し、若手研究者の育成も目的としています。また、研究センターの設置期間を限定し、成果に対して厳格な評価を行うところが大きな特徴です。

2015.4.1現在

研究センター一覧

● インフラストラクチャー研究センター	● 神経疾患研究センター	● こころの科学研究センター
● 電磁エネルギー応用研究センター	● 新エネルギー変換材料研究センター	● 高機能微粒子研究センター
● 高等教育・学生研究センター	● 管径方向分配現象研究センター	● 京都と茶文化研究センター
● 文化遺産情報科学センター	● 治療システム研究センター	● 東南アジアのプラントーション研究センター
● 犯罪学研究センター	● ナノ・バイオサイエンス研究センター	● 先端医学研究センター
● コリア研究センター	● 市民外交研究センター	● 生命倫理ガバナンス研究センター
● インバーティブコンピューティング研究センター	● 先端バイオメカニクス研究センター	● 先端バイオマテリアル研究センター
● モビリティ研究センター	● 創造経済研究センター	● 良心学研究センター
● 国際ビジネス法務研究センター	● アディボサイト&マッスルサイエンス研究センター	● 公共サービス研究センター
● 波動エレクトロニクス研究センター	● 体力医科学研究センター	● ソーシャル・ウェルネス研究センター
● 高次神経機能障害研究センター	● (奄美・沖縄・琉球) 研究センター	● 実証に基づく心理・社会的ドリームセンター
● 先端複合材料研究センター	● 超音波医科学研究センター	● システム神経科学研究センター

### 寄付教育研究プロジェクト（群）

寄付教育研究プロジェクトは、個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。研究センターとともに研究開発推進機構として組織され、独自の研究拠点の形成を目指しています。

2015.4.1現在

寄付教育研究プロジェクト一覧

- アンチエイジングリサーチセンター
- 炎症・再生医療研究センター
- 糖化ストレス研究センター
- 天然物基盤創薬研究センター

### リサーチ・アドミニストレーションセンター

国際的な大学評価を確保するためには、研究戦略策定および産官学連携の推進、国内外機関および企業などからの情報収集や折衝、大型プロジェクト進捗管理など、支援を行うことが必須です。

リサーチ・アドミニストレーションセンターは、本学における研究開発推進のマネジメントを統括的にを行い、研究者がより一層、研究活動そのものに専念できる環境を整備・構築し、本学の研究活動の充実と発展に寄与することを目的としています。

### リエゾンオフィス

リエゾンオフィスは、大学と企業、地域社会とを結び「窓口」となり、本学の教職員が有する知的資源を公開し、研究成果をもとに広く社会と連携することを目的としています。全学的な組織として、学際的な産官学共同事業にも対応しながら、新しい産業やビジネスの創出を目指します。

一方で、総合大学としての本学の機能をトータルコーディネートし、技術や研究に関するアドバイスや、経営コンサルティングに関する相談などあらゆるサービスを提供できる体制を整えています。

### 知的財産センター

知的財産センターでは、教育・研究成果などの知的財産を創出する支援を行います。知的財産を保護し、増強するだけでなく、社会への還元と活用を通して社会に貢献することを目的としています。

学生や教職員の知的財産創出の支援、知的財産の権利化や維持・管理、社会での活用の促進といった事業を通して、本学の知的財産を活用して社会に新しい活力をつくり出す重要な拠点として、今後も多彩な活動を展開します。

## 高等研究教育機構

高等教育院を中心に大学院教育プログラムの開発と実施、博士課程教育リーディングプログラムの実施など先端的・学際的な大学院教育の高度化を推進します。

### ◆博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント（GRM）」

平成24年度文部科学省博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型（多文化共生社会）採択。資源・エネルギーに関わる高度な自然科学・理工学的知の体系と、多文化共生に関わる人文・社会科学知の体系を統合した文理融合の視点と強靱な精神力、高度な倫理観をあわせ持ったグローバル・リーダーの養成を目指します。

# 学生生活サポート

http://www.doshisha.ac.jp/student\_life/index.html

## 学生支援機構

学生生活をより充実したものにするために、学生一人ひとりを総合的にサポートするのが学生支援機構です。

### 学生の啓発支援

- 自己啓発情報の発信
- 各種セミナー
- キャンパス・コミュニティビルディング

### 障がい学生支援

- ガイドヘルプ
- ノートテイク
- 車椅子介助
- パソコン通訳

### 課外活動支援

- 補助金
- 施設貸出

### 学生生活支援

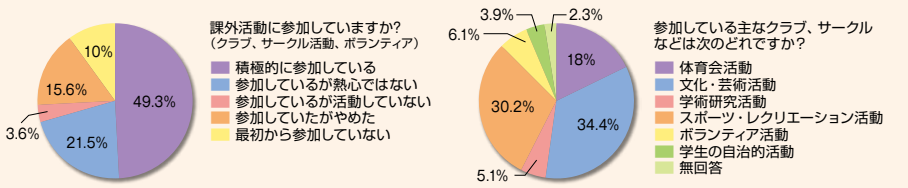
- 医療費補助
- アルバイト紹介
- 学生寮
- 学生教育研究災害傷害保険
- 下宿紹介

### 健康管理

- カウンセリングセンター（特別支援オフィス）
- 保健センター

### データで見る学生生活

※日本私立大学連盟が実施した第15回学生生活実態調査から本学学生のみを集計を掲載



## 課外活動団体リスト（公認団体）

2015.5.31現在

- 文化系団体**
  - 文学研究会
  - 地学研究会
  - 古美術研究会
  - 考古学研究会
  - 京都研究会
  - 歴史美術研究会
  - 史跡同好会
  - Folk Song Society (F.S.S.)
  - 軽音楽部
  - 吹奏楽部
  - チアリーダー部
  - ライラックラインボーズ
  - サザン・マウンテン・ミュージック研究会 (S.M.M.A.)
  - とんがりぼうし
  - ART-SOZO
  - 美術部「執」
  - クラマ画会
  - neuf
  - 陶芸サークル「土夢」
  - ロボット研究会
  - 天文同好会
  - ART-SOZO
  - 美術部「執」
  - クラマ画会
  - neuf
  - 陶芸サークル「土夢」
  - ロボット研究会
  - 天文同好会
  - ART-SOZO
  - 美術部「執」
  - クラマ画会
  - neuf
  - 陶芸サークル「土夢」
  - ロボット研究会
  - 天文同好会
- スポーツ系団体**
  - サッカー同好会
  - 三ツ葉キッカーズ
  - 淡水会
  - ゴルフ同好会
  - アルテメットサークル
  - 柔道同好会
  - バスケットボールクラブ
  - INTENSITY
  - テコンドー部
  - バスケットボールクラブ
  - WILD CATS
  - 拳友会
  - プロレス同盟
  - Do&Do バドミントンハウス
  - 同志社フットサルクラブ
  - 同志社サイクリングクラブ
  - ヨットクルーディングクラブ
  - 釣研究会 (D・A・S)
  - FC ブルーローバーズ
  - 熱気球チーム
  - 陸上ホッケー部
  - 陸上競技部
  - サッカー部
  - 山岳部
  - 少林寺拳法部
  - ソフトボール部
  - ソフトテニス部
  - 水泳部
  - スキー部
  - 相撲部
  - スピードスケート部
  - 体操競技部
  - 卓球部
  - テニス部
  - フンダーフォーゲル部
  - ヨット部
  - トライアスロン部
- その他**
  - マシタ&ジャングルサークル
  - Hocus-Pocus
  - よさこいサークルよさ朝
  - Meahula Nohealani
  - タプタプサークルShim Sham
  - Soul 2 Soul
  - リダーワークランツ
  - One Voices
  - 囲碁研究会
  - 模型研究会
  - 料理研究会
  - 将棋研究会
  - アニメーション・ヴォイス研究会
  - SF研究会
  - 喜劇研究会
  - 人力車友の会
  - 鉄道同好会
  - ワーキングコース
  - ユース・ホステル・クラブ
  - 雅楽会
  - 邦楽部
  - 能楽部金剛会
  - 能楽部親世会
  - 能楽部宝生会
  - 能楽部狂言会

文化系団体…96団体 スポーツ系団体…27団体 体育会…52団体 [合計…175団体]

# 奨学金

http://www.doshisha.ac.jp/scholarships/

## 2015年度同志社大学奨学金制度一覧表

### 1.学部

名称	種類	金額	備考
同志社大学奨学金 (入学前募集, 秋期募集)	給付	<年額> 授業料相当額の1/2	●給付期間: 1か年 (毎年出願可) ●外国人留学生は出願不可
同志社大学貸与奨学金 (入学前募集, 秋期募集)	貸与 (無利子)	<年額> ①授業料相当額の1/2 ②授業料相当額	●貸付期間: 1か年 (毎年出願可) ●最短修業年限+1年まで出願可 ●外国人留学生は出願不可 ●返還: 卒業後10年以内 ※②授業料相当額は秋期募集のみ選択可
同志社大学 外国人留学生奨学金	給付	<年額> 120,000円 (2011年度以前入学生対象)	●給付期間: 1か年 (毎年出願可) ●他に、国際センター留学生課が窓口 (075-251-3257) の奨学金制度がある
同志社大学 育英奨学金	給付	<年額> 300,000円	●給付期間: 1か年 (毎年出願可) ●公募及び学部推薦 (学部により異なる)
同志社大学 寄付奨学金	給付	<年額> 100,000円	●1か年限り (推薦制) ●公募はしない
同志社大学 特定寄付奨学金	給付	<年額> 300,000円	●1か年限り (推薦制) ●公募はしない
同志社大学 短期貸付金	貸与 (無利子)	①一般貸付: 30,000円以内 ②特別貸付: 100,000円以内	●返還: 一般貸付は3か月以内、特別貸付は10か月以内の月賦による
日本学生支援機構 第一種奨学金	貸与 (無利子)	<月額> 自宅生: 30,000円または54,000円 自宅外生: 30,000円または64,000円	●詳細は日本学生支援機構ウェブサイト参照
日本学生支援機構 第二種奨学金	貸与 (有利子)	<月額> 下記金額から選択制 30,000円, 50,000円, 80,000円, 100,000円, 120,000円	
同志社校友会奨学金	給付	<年額> 300,000円	●1か年限り (推薦制) ●公募はしない
民間・地方公共団体奨学金	給付 (無利子)	各奨学団体により異なる	●大学推薦団体は同志社大学奨学金・同志社大学貸与奨学金と同時に募集 (民間団体奨学金のみは登録可) ●返還: 貸与の場合は各奨学団体により異なるが卒業後10~15年以内

### 2.大学院

名称	種類	金額	備考
同志社大学大学院奨学金	給付	<年額> 授業料相当額の1/2	●給付期間: 1か年 (毎年出願可) ●専門職学位課程は対象外
同志社大学大学院 特別奨学金	給付	<年額> 授業料相当額に120,000円を加えた額	●給付期間: 1か年 (推薦制) ●公募はしない ●前期課程及び一貫制博士課程の在学2年以内のうち、研究科に推薦された学力、人物と特に優秀かつ研究者として期待される (脳科学研究科、ビジネス研究科 (専門職学位課程) は除く)
同志社大学大学院 博士後期課程 若手研究者育成奨学金	給付	年間学費 (入学金 (入学時のみ)、授業料、教育充実費及び実験実習料) 相当額	●給付期間: 1年間 ただし、所定の継続審査により、標準修業年限を上限に継続することがある。 ●後期課程に在学している入学時34歳未満の者及び一貫制博士課程に2年以上在学している入学時32歳未満の者のうち、各研究科に推薦された学修意欲のある者 (脳科学研究科は対象外) ●公募はしない
同志社大学 寄付奨学金	給付	<年額> 100,000円	●給付期間: 1か年限り (推薦制) ●公募はしない
同志社大学 貸与奨学金 (秋期募集)	貸与 (無利子)	<年額> ①授業料相当額の1/2 ②授業料相当額	●貸付期間: 1か年 (毎年出願可) ●最短修業年限+1年まで出願可 ●外国人留学生は出願不可 ●返還: 原則として修了後10年以内
同志社大学大学院 脳科学研究科 特別奨学金	給付	年間学費 (入学金 (入学時のみ)、授業料、教育充実費及び実験実習料) 相当額	●給付期間: 1か年 ただし、所定の継続審査により、標準修業年限を上限に継続することがある。原則として入学時32歳未満 (転入学時34歳未満) で、脳科学研究科に推薦された学修意欲のある者。 ●公募はしない
同志社大学大学院 司法研究科 奨学金	給付	<年額> ①第1類奨学金 [2年間継続型] 年間の単位授業料相当額 ②第2類奨学金 [単年度給付型] 年間の単位授業料相当額 ③第3類奨学金 [単年度給付型] 年間の単位授業料相当額の1/2	●一年次生: 入学試験の成績による選考 (秋に補充採用することがある) ●二年次生以上: 学業成績優秀者の中から選考 ●公募はしない
同志社大学大学院 司法研究科 貸与奨学金	貸与 (無利子)	<学期> ①一学期の単位授業料相当額 ②一学期の単位授業料相当額の1/2	●貸付期間: 一学期 (学期ごとに可) ●最短修業年限まで出願可能 ●外国人留学生は出願不可 ●連帯保証人が2名必要 ●返還は原則として修了時から貸与回数×3年以内とする。ただし、15年を超えないものとする
同志社大学大学院 司法研究科 特別支給奨学金	給付	<年額> 140,000円	●対象は同志社大学を卒業、同志社大学在学中で飛び入学又は同志社大学大学院を修了し、司法研究科に入学した者。有資格者全員を採用する。 ●入学初年度のみ、各学期7万円を給付する
同志社大学 短期貸付金	貸与 (無利子)	①一般貸付: 30,000円以内 ②特別貸付: 100,000円以内	●返還: 一般貸付は3か月以内、特別貸付は10か月以内の月賦による
日本学生支援機構 大学院 第一種奨学金	貸与 (無利子)	<月額> 下記金額から選択制 (前期) 50,000円・88,000円 (後期) 80,000円・122,000円	●詳細は日本学生支援機構ウェブサイト参照
日本学生支援機構 大学院 第二種奨学金	貸与 (有利子)	<月額> 下記金額から選択制 50,000円, 80,000円, 100,000円, 130,000円, 150,000円	
民間・地方公共団体奨学金	給付 (無利子)	各奨学団体により異なる	●返還: 貸与の場合は各奨学団体により異なるが卒業後10~15年以内



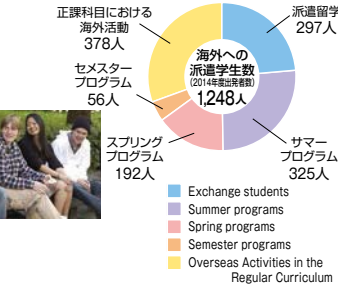
国際交流 International Exchanges

http://www.doshisha.ac.jp/international/index.html

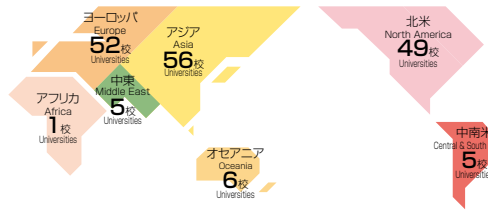
留学生・派遣学生数 International Partners and Outbound Doshisha Students

同志社大学は現在、世界42カ国・地域174大学(2015年4月30日現在)と交流協定を結び、そのほとんどの大学と学生交換を行っています。

Number of Doshisha Students Studying Overseas with University-led Programs (Started in 2014 Academic year)



Doshisha University has exchange agreements with 174 universities in 42 countries (as of April 30, 2015), and is further expanding international partnership and improving the content of the programs from year to year.



スタディー・アブロード・プログラム拠点 Study Abroad Program Base

外国の一流協定大学が日本における教育研究拠点として4センターを設置しています。There are four research centers belonging to renowned overseas partner universities on the Imadegawa Campus.

外国協定大学の日本語・日本研究のスタディー・アブロード・プログラム拠点として大学内に設置。センターでは、独自の日本語プログラムを提供しており、プログラムを履修する各センターの留学生は日本人学生と共に、本学の施設なども利用しています。

Each of which has been set up as a research base for Japanese studies and Japanese language programs. International students from those universities study the centers' individual programs on Japanese language and culture and all enjoy full access to the facilities of Doshisha University.

Stanford Program in Kyoto: アメリカの名門大学であるスタンフォード大学の機関で、毎年約50名の留学生を受け入れています。本センターは同大学の日本語プログラムの拠点として、日本語教育から日本文化、宗教、経済、工学等幅広い講義を行っています。

AKP (Associated Kyoto Program) Center: Associated Kyoto Program (AKP) はアメリカを代表する14の名門リベラルアーツ・カレッジから毎年約30名の学生を受け入れる、1972年以降の留学プログラムを運営する機関です。

Tuebingen University Center for Japanese Studies: ドイツのチュービンゲン大学が1993年に設置したセンターで、同大学の日本語拠点になっています。毎年約20名の留学生を受け入れ、日本語と日本文化を学ぶための講義が行われています。

Kyoto Consortium for Japanese Studies (KCJS): KCJS (Kyoto Consortium for Japanese Studies)「京都アメリカ大学コンソーシアム」は、1989年に設立されました。アイビー・リーグの大学を中心に全米14大学からなる日本研究のための留学プログラムです。

海外拠点 Overseas Offices

海外拠点は8カ国10都市、校友会海外支部は17カ国24都市(2015年3月現在) Our overseas offices are located in 10 cities from 8 countries. The branches of Doshisha Alumni Association are located in 24 cities in 17 countries. (as of March, 2015)

同志社大学では、国際化推進の取り組みの迅速・効果的発展のため、グローバルに拠点を展開。各拠点の特色を活かしながら、本学在学生の留学時の支援や、留学生受入れのための様々な取り組みを行っています。

- 海外拠点 ●現地事務所 Locations ①台湾・台北 Taipei, Taiwan ②イギリス・ロンドン London, United Kingdom ③ベトナム・ハノイ Hanoi, Vietnam ④中国・北京 Beijing, P.R. China ⑤中国・上海 Shanghai, P.R. China ⑥韓国・ソウル Seoul, Korea ⑦トルコ・イスタンブール Istanbul, Turkey ●協定大学内拠点 Offices established within affiliated universities a. アメリカ... b. イギリス... c. マレーシア...

Doshisha University's overseas offices were established in order to further promote more rapid and effective internationalization. These offices make the most of characteristics unique to each locale, undertaking various efforts to support our students while they are studying overseas and to recruit overseas students to come to Japan.

2015年度 同志社大学外国人留学生 学部・大学院・日本語・日本文化教育センター・留学生別科 国・地域別在籍者数 Number of International Students Enrolled in the Year 2015 by Nationality and Region 2015.5.1現在 (As of May 1, 2015)

Table with columns for departments (学部), graduate schools (大学院), international science and technology courses (国際科学技術コース), and global MBA programs (グローバル経営研究). Rows list countries and regions with student counts by gender and program type.

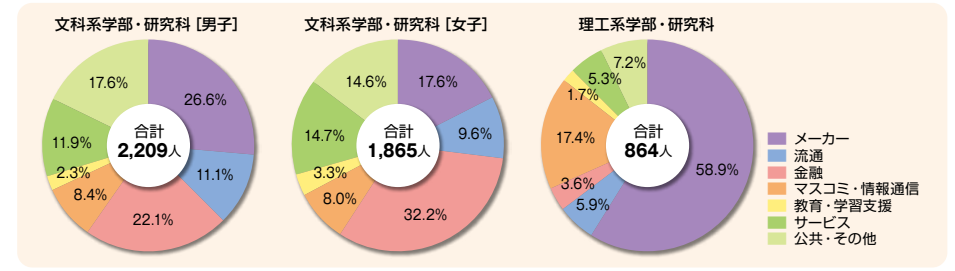
\*同志社大学外国人留学生内訳の第2条の外国人留学生定数による... \*The figures are based on definition of International Students at Doshisha University. \*The figures of the Institute for the Liberal Arts, International Science and Technology Course, Global MBA Course and General Entrance Examination are calculated those who hold "college degree" visa.

# キャリア形成支援

<http://www.doshisha.ac.jp/career/index.html>

## 2014年度就職状況業種別

2015年4月採用では、男子96.5%、女子97.9%という高い就職率を維持し、就職内定アンケートでは、全学生の92%以上が内定先に「大いに満足」「満足」と回答しています。



## 主な就職先

- 建設・不動産：(株)大林組、積水ハウス(株)、大和ハウス工業(株)、(株)竹中工務店
  - 製造：旭化成グループ、アステラス製薬(株)、大塚製薬(株)、キリン(株)、キヤノン(株)、京セラ(株)、(株)神戸製鋼所、サントリーホールディングス(株)、(株)資生堂、シャープ(株)、スズキ(株)、ダイキン工業(株)、大日本印刷(株)、武田薬品工業(株)、(株)デンソー、(株)東芝、トヨタ自動車(株)、日本電気(株)、任天堂(株)、(株)日立製作所、富士ゼロックス(株)、富士通(株)、本田技研工業(株)、パナソニック(株)、(株)パナダイ、三菱重工(株)、三菱電機(株)、(株)村田製作所、(株)LIXIL、ローム(株)、(株)ワコール
  - 流通：イオンリテール(株)、伊藤忠商事(株)、住友商事(株)、双日(株)、(株)大丸松坂屋百貨店、(株)高島屋、丸紅(株)、三菱商事(株)
  - 金融：(株)池田泉州銀行、SMBC日興証券(株)、(株)京都銀行、(株)滋賀銀行、損害保険ジャパン日本興亜(株)、第一生命保険(株)、(株)大和証券グループ本社、東京海上日動火災保険(株)、(株)南都銀行、(株)日本政策金融公庫、日本生命保険(株)、野村證券(株)、みずほフィナンシャルグループ、三井住友カード(株)、三井住友海上火災保険(株)、(株)三井住友銀行、三井住友信託銀行(株)、(株)三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行(株)、(株)ゆうちょ銀行、(株)りそなホールディングス
  - 新聞・出版・広告：(株)朝日新聞社、(株)神戸新聞社、(株)産業経済新聞社、(株)時事通信社、(株)中国新聞社、(株)中日新聞社、(株)電通、(株)日本経済新聞、(株)博報堂、(株)ベネッセコーポレーション、(株)読売新聞東京本社、(株)読売新聞大阪本社
  - 放送：朝日放送(株)、関西テレビ放送(株)、(株)京都放送、中部日本放送(株)、テレビ大阪(株)、(株)テレビ新広島、日本放送協会、(株)毎日放送、讀賣テレビ放送(株)
  - 情報通信：エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・データ、西日本電信電話(株)、ソフトバンクグループ、(株)野村総合研究所
  - 運輸：(株)商船三井、全日本空輸(株)、東海旅客鉄道、西日本旅客鉄道(株)、日本航空(株)、日本通運(株)、日本郵船(株)
  - 公共・サービス・その他：(株)エイチ・アイ・エス、大阪ガス(株)、(株)オリエンタルランド、オリックス(株)、関西電力(株)、JTBグループ、中部電力(株)、(株)リクルートホールディングス
  - 公務員・教員・その他教育機関：国家公務員(総合職)、国家公務員(一般職)、国税専門官、裁判所職員(一般職)、大阪市、大阪府、京都市、京都府
- 50音順(業種別)

## 資格取得

順位	大学名	人数
1	慶應義塾大学	120
2	早稲田大学	94
3	中央大学	87
4	明治大学	69
5	同森社大学	43
6	立命館大学	29
6	関西大学	29
8	関西学院大学	28
9	法政大学	27
9	神戸大学	27

※公認会計士三田会(慶應義塾大学出身の公認会計士の会)の調査を基にしています。

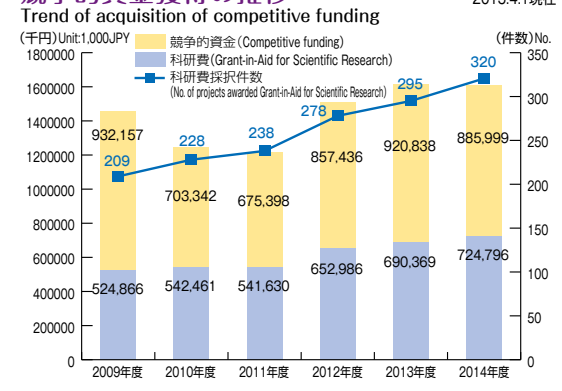
## 法職講座

法学出身の法曹や法科大学院教員の協力のもとに運営されている法学部の課外講座です。法曹の仕事や法科大学院入試、司法試験予備試験に関する情報提供のほか、法律科目や答案作成のセミナー、司法試験合格者との懇談等の企画で、受験を支えています。

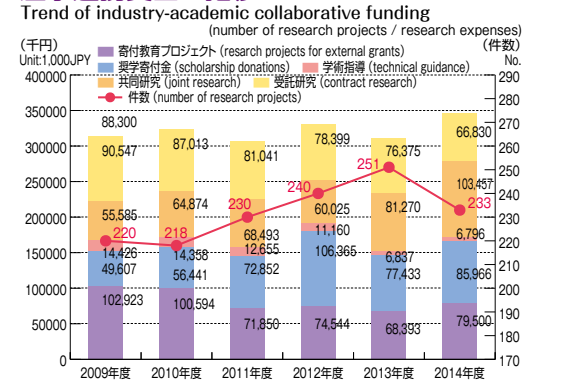
## その他の資格試験講座・ガイダンス

- 資格試験講座
  - ・日商簿記検定対策講座 [3級商業簿記] [2級商業簿記] [2級工業簿記]
  - ・公認会計士入門講座 ・税理士入門講座
  - ・FP技能士3級資格試験対策講座 ・めざせ! TOEIC600講座 [商学部生限定]
  - ・証券アナリスト講座 ・中小企業診断士講座
- 資格試験ガイダンス
  - ・証券アナリストガイダンス
  - ・中小企業診断士ガイダンス
  - ・公認会計士vs税理士・日商簿記検定試験対策ガイダンス
  - ・公認会計士入門講座・税理士入門講座ガイダンス
  - ・ファイナンシャル・プランナーガイダンス

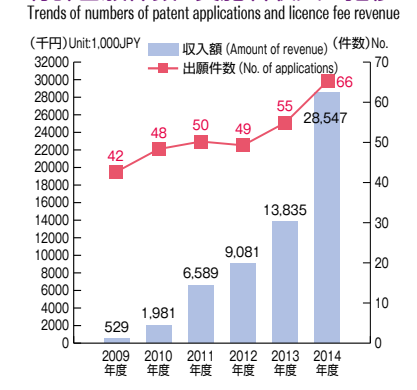
## 競争的資金獲得の推移



## 産学連携資金の推移



## 特許出願件数・実施料収入の推移

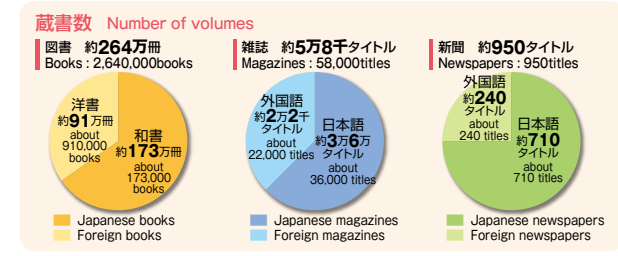


## 学術資料について Academic Materials in the Libraries

[http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/basic\\_data/new.html](http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/basic_data/new.html)

## 蔵書・座席数、学生利用パソコン台数

2015.3.31現在 (As of March 31, 2015)



今出川校地図書館 (Imadegawa campus)	1,168席
ラーネット記念図書館 (Learned Memorial Library (Kyotanabe campus))	1,514席
研究室・研究所等 (Laboratories, Research Centers)	581席
計	3,263席 Total: 3,263seats

今出川校地 (Imadegawa campus)	PC1,646台、プリンタ61台
京田辺校地 (Kyotanabe campus)	PC1,430台、プリンタ51台

# 財務状況 Financial Status

http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/basic\_data/new.html

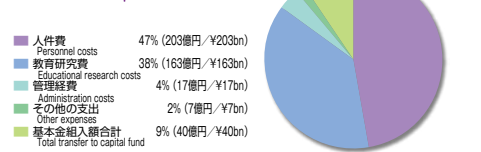
## 2014年度(平成26年度)大学消費収支計算書 Statement of Revenues and Expenses for FY2014 (千円) Unit:1,000JPY

消費支出の部(Expenses)			
科目 account item	予算 budget account	決算 final account	差異 balance
人件費 Personnel costs	20,328,830	20,345,026	△ 16,196
教育研究費 Educational and Research	17,036,480	16,295,992	740,488
消耗品費等 Consumable Supplies	13,012,080	12,270,868	741,212
減価償却額 Depreciation for Depreciation	4,024,400	4,025,124	△ 724
管理経費 Management	1,725,540	1,675,270	50,270
消耗品費等 Consumable Supplies	1,552,960	1,503,402	49,558
減価償却額 Depreciation for Depreciation	172,580	171,868	712
借入金等利息 Interest on Loans	4,440	4,443	△ 3
資産処分差額 Asset sell-off balance	23,720	86,173	△ 62,453
徴収不能引当金繰入額 Allowance for Uncollectible Accounts	136,200	128,961	7,239
徴収不能額 Uncollectible Accounts	0	6,415	△ 6,415
繰入金 Money Transferred	435,160	456,792	△ 21,632
予備費 Reserve fund	120,000	0	120,000
<b>消費支出の部合計</b>	<b>39,810,370</b>	<b>38,999,072</b>	<b>811,298</b>
当年度消費収支差額 Balance amount (current year)	△ 4,198,340	△ 1,859,735	△ 2,338,605
前年度繰越消費収支差額 Balance carried over from previous year	△ 34,654,650	△ 34,654,655	
支出準備金取崩額 Transfer from expenditure reserve	3,143,630	2,184,992	
支出準備金繰入額 Allowance for expenditure reserve	△ 47,200	△ 493,791	
調整後当年度消費収支差額 Adjusted balance amount (current year)	△ 1,101,910	△ 169,434	
翌年度繰越消費収支差額 Balance carried forward to next year	△ 35,756,560	△ 34,824,089	

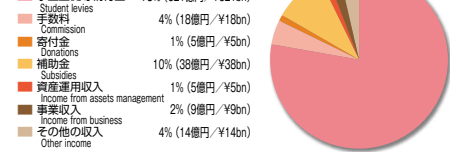
消費収入の部(Revenues)			
科目 account item	予算 budget account	決算 final account	差異 balance
学生生徒等納付金 Student Tuition and Fees	32,049,310	32,129,653	△ 80,343
手数料 Processing Fees	1,732,200	1,780,918	△ 48,718
寄付金 Donations	281,020	522,021	△ 241,001
補助金 Subsidies	3,492,660	3,807,444	△ 314,784
資産運用収入 Asset Investment Income	498,460	553,488	△ 55,028
資産売却差額 Gains from Sale of Assets	0	10,686	△ 10,686
事業収入 Income from Business Activities	673,480	926,720	△ 253,240
雑収入 Miscellaneous	838,880	989,059	△ 150,179
繰出金	342,880	331,910	10,970
分担金 Assessed contribution	109,250	109,250	0
<b>帰属収入合計</b>	<b>40,018,140</b>	<b>41,161,149</b>	<b>△ 1,143,009</b>

基本金組入額合計 Transfers to Capital Fund	△ 4,406,110	△ 4,021,812	△ 384,298
消費収入の部合計 Total	35,612,030	37,139,337	△ 1,527,307

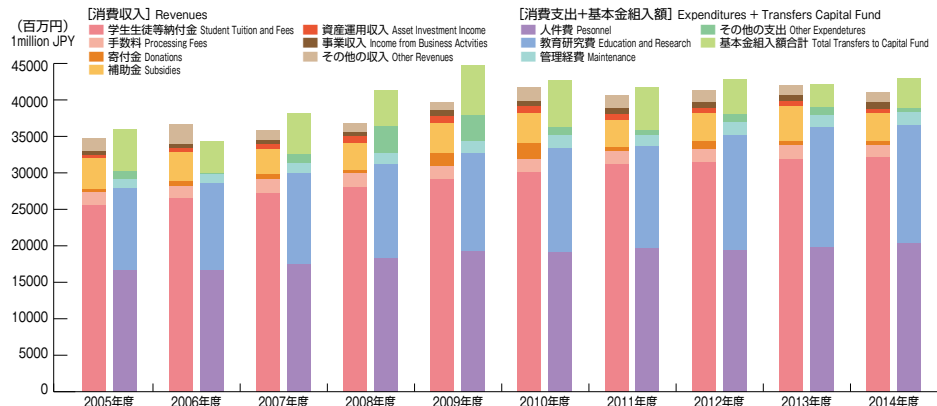
### 消費支出+基本金組入額の構成比 Breakdown of Consumer Expenditure + Transfer to Capital Fund



### 帰属収入の構成比 Breakdown of Imputed Income



### 消費収支の推移 Changes in the composition of Revenues and Expenditures



# 建物紹介

http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/buildings/kyotanabe.html  
http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/buildings/imadegawa.html

## 今出川校地 Imadegawa Campus



**クラーク記念館(国の重要文化財) Clarke Memorial Hall**  
B.W.クラーク夫妻からの寄付により建設されたもの。ドックのステーションを模倣とする西洋建築で、印象的な尖塔は同志社のシンボル的存在になっている。1894(明治27)年の開館当時クラーク神学院と呼ばれ、神学教育・研究の中心となっていた。2008年2月、5年にわたる保存修理工事を経て竣工。(designated as a national important cultural property)  
The construction of the Clarke Memorial Hall was made possible by a contribution from American missionaries, Mr. and Mrs. B.W. Clarke. It is a stately and magnificent building based on the German neo-gothic style, whose unique steeple has become a symbol of Doshisha. It was named the Clarke Seminary when first established in 1894, and was the center of theological education and research. The repair for preservation was finished in February, 2008.



**ハリス理化学館(国の重要文化財) Harris Science Hall**  
理科教育をめざした新島襄の情熱に応えたJ.N.ハリスの贈りにより、ハリス理化学館(工学部の前身)の校舎として建築された。1890(明治23)年の竣工で、イギリス風の煉瓦建築。現在は「同志社ギャラリー」として展示場を行っている。(designated as a national important cultural property)  
This British-style brick building was constructed in 1890 through the generous benefaction of an American businessman, J.N. Harris, who had great empathy with Neesima's strong enthusiasm for science education. The building was the predecessor of the present Faculty of Science and Engineering at Doshisha University. The building currently functions as Doshisha Gallery, for exhibitions, displays, etc.



**礼拝堂(チャペル)(国の重要文化財) Doshisha Chapel**  
D.C.グリーンが設計し、1886(明治19)年に竣工したアメリカン・ゴシック調の鉄板葺き煉瓦造り。アメリカン・ゴシックの寄付により建築された。日本におけるプロテスタント派の煉瓦造りの礼拝堂としては数少ない最古のもの。同志社の歴史とキリスト教精神を象徴する建物である。(designated as a national important cultural property)  
This American-Gothic brick building, with its iron-sheet thatched roof, was constructed in 1886 following a donation from the American Board of Commissioners for Foreign Missions. It was designed by D.C. Green and is the oldest brick Protestant chapel in existence, as well as being a symbol of the history and the spirit of Doshisha's Christianity.



**彰栄館(国の重要文化財) Shoekan**  
アメリカン・ボードの寄付によりD.C.グリーンが設計し、1884年に竣工。レンガ造りの洋風な外観に対し、内部の間仕切り壁や小窓など、構造形式は純和風。塔屋は鐘楼と時計塔を兼ねており、毎朝の礼拝を告げる鐘の音は、明治以来、同志社中学校が着席キャンパスに移転するまで、司鐘生と呼ばれる中学校の生徒が担当した。現在は学生会等が管理されている。(designated as a national important cultural property)  
The building Shoekan was donated by the American Board of Commissioners for Foreign Missions, and designed by the missionary Daniel Crosby Greene. It was completed in 1884. Externally, it is a brick construction in the Western architectural style. In contrast, the structural form inside the building is in a purely Japanese style, featuring typical internal partitions, roof trusses, etc. The central tower functions as both a clock tower and a bell tower. The bell tolled prayers each morning from the Meiji era until Doshisha Junior High School was relocated to the Iwakura Campus. Over the years, a junior high student (given an official bell-ringer title) was assigned responsibility for tolling the bell. Today, Shoekan houses the office of the Doshisha University president, amid other facilities.



**良心館 Ryoshinkan**  
2012年10月に竣工した。地下2階、地上5階建ての新校舎。教学施設のほか、ラウンジや食堂、購買等も備えた床面積40,000㎡を超える複合施設。建物中央部の2階から3階にかけては、日本の大学では最大級のラウンジ・コモンズを設けており、学生の学術活動の拠点となっている。  
This new building was completed in October 2012 with five floors above ground and two below. In addition to educational facilities, the complex, with an area of over 40,000 square meters, also includes a lounge, dining hall and stores. The largest Learning Commons among Japanese universities has been established from the second to third floors in the center of the building as a hub for academic activities for students.

## 京田辺校地 Kyotanabe Campus



**ラーネット記念図書館 Learned Memorial Library**  
第2代学長をつとめたD.W.ラーネットを記念する図書館。玄関正面には、彼の愛語句「Learn to Live and Live to Learn」(生きるために学ぶ、そして学ぶために生きよう)が刻まれている。  
This library was established to dedicate to the memory of the second chancellor, D.W. Learned. On the front of the building can be found the phrase he loved: "Learn to Live and Live to Learn"



**デイヴィス記念館 Davis Memorial Auditorium**  
新島襄の片腕となつた同志社英学校(工学部の前身)の校舎として建築された。1890(明治23)年の竣工で、イギリス風の煉瓦建築。現在は「同志社ギャラリー」として展示場を行っている。(designated as a national important cultural property)  
This multipurpose gymnasium and auditorium was constructed in memory of J.D. Davis who greatly contributed to the establishment of the Doshisha Eigakko (Academy) by supporting Neesima as a dedicated partner. Davis's words, "My life is my message" are displayed in the front lobby of the building.



**同志社ローム記念館・情報メディア館 Doshisha Rohm Memorial Hall and IT&Media Center**  
マルチメディアラウンジや劇場空間などを持つ「同志社ローム記念館」と、情報関連の正規授業に使用される「情報メディア館」からなる複合施設。2003年秋に完成し、最先端の情報教育環境を提供する。  
This is a large complex consisting of the Doshisha Rohm Memorial Hall and IT&Media Center established in the fall of 2003. The Doshisha Rohm Memorial Hall has a multi-media lounge theater space, while the IT&Media Center is used for regular classes related to information science and technology. The entire complex offers an extremely advanced environment for information education.



**理化学館 Rikagakukan**  
今出川キャンパスにあるハリス理化学館の理念を継いだ施設。玄関正面には、J.N.ハリスの言葉「SEEK THROUGH YOUR VOCATION TO SERVE GOD AND HUMANITY」(天職による神と人類への献身)が刻まれている。  
This building shares the philosophy of the Harris Science Hall on the Imadegawa Campus. On the front of the building can be found the words of J.N.Harris, "Seek through your vocation to serve God and humanity"



**同志社京田辺会堂 Doshisha Kyotanabe Kaido**  
建学の理念を具現化するものとして2015年3月に誕生した宗教施設。コンセプトは「新島襄の「海」がたつたキリスト教主義と自由の精神」。キリスト教主義の象徴である礼拝堂を有する「言館(KOTOBA-KAN)」と、自由主義を表す「光館(HIKARI-KAN)」からなる。  
Doshisha Kyotanabe Kaido was constructed in March 2015 as a religious facility that embodies the founding spirit of Doshisha University. It was designed under the concept of "Christian principles and spirit of liberalism". The facility comprises KOTOBA-KAN, which encompasses a chapel, the symbol of Christian principles, and HIKARI-KAN, which expresses "liberalism". A water feature called "Ocean of Joseph Neesima" connecting the two buildings brings a sense of unity.

# 今出川校地 Imadegawa Campus

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/overview.html>



今出川キャンパスは同志社大学の誕生の地であり、140年にわたる歴史そのものといえます。キャンパス内の礼拝堂、彰栄館、有終館、ハリス理化学館、クラーク記念館は国の重要文化財にも指定されている明治の建造物で、その後大正や昭和初期、近年に建てられた学舎と美しい調和を見せています。さながら明治以降の大学教育の歩みを語る生きた博物館といえるでしょう。総面積97,000㎡のキャンパスでは、約20,000人が学生生活を送っています。

The Imadegawa campus is located on the site where Doshisha was founded 140 years ago. The campus building of the Meiji era, such as the Doshisha Chapel, Shoeikan, Yushukan, Harris Science Hall, and Clarke Memorial Hall are designated as cultural properties of national importance, keeping in harmony with the modern buildings on the campus constructed in the Taisho and early Showa era. These buildings stand as a living museum, a testament to the history and development of university education in Japan through the years from the Meiji era to the present day. About 20,000 students are now studying on this campus, which has a total area of 97,000m<sup>2</sup>.

## 140年の同志社の歴史と伝統を現代に伝え続ける学舎 Having passed down 140 years of history and tradition of Doshisha

### 今出川キャンパス Imadegawa Campus

- ①アーモスト館 (登録有形文化財) Amherst House
- ②光塩館 Koenkan / 法学部・法学研究科事務室
- ③啓明館 (登録有形文化財) Keimeikan
- ④待辰館 Taishinkan
- ⑤神学館 Divinity Hall / 神学部・神学研究科事務室
- ⑥致遠館 Chienkan
- ⑦有終館 (重要文化財) Yushukan
- ⑧弘風館 Kofukan / 日本語・日本文化教育センター、入学センター

- ⑨明德館 Meitokukan / 食堂、学生ラウンジ・コンビニ
- ⑩徳照館 Tokushokan / 文学部・文学研究科事務室
- ⑪図書館 Library
- ⑫クラーク記念館 (重要文化財) Clarke Memorial Hall / キリスト教文化センター
- ⑬至誠館 Shiseikan / 商学部・商学研究科事務室
- ⑭扶桑館 Fusokan / 国際センター、国際交流ラウンジ
- ⑮ハリス理化学館 (重要文化財) Harris Science Hall Doshisha Gallery / 同志社ギャラリー

- ⑯同志社礼拝堂 (チャペル) (重要文化財) Doshisha Chapel
- ⑰彰栄館 (重要文化財) Shoueikan
- ⑱真義館 Shingikan
- ⑲寧静館 Neiseikan / 情報教室
- ⑳博遠館 Hakuenkan
- ㉑良心館 Ryoshinkan / 今出川キャンパス教務センター、経済学部・経済学研究科事務室、ラウンジ、食堂、コンビニ、書籍店舗、ラーニング・commons、ITサポートオフィス

### 烏丸キャンパス Karasuma Campus

- ㉒志高館 Shikokan / グローバル地域文化学部事務室、グローバル・スタディーズ研究科事務室、総合政策科学研究科事務室、国際教育インスティテュート

### 室町キャンパス Muromachi Campus

- ㉓寒梅館 Kambaikan / 学生支援センター、カウンセリングセンター、保健センター、キャリアセンター、司法研究科事務室、ビジネス研究科事務室、ハーディーホール、クローバーホール

### 新町キャンパス Shimmachi Campus

- ㉔育真館 Ikushinkann / 体育施設
- ㉕尋真館 Jinshinkan
- ㉖臨光館 Rinkokan / 社会学部・社会学研究科事務室、政策学部事務室、新町カフェテリア
- ㉗泷水館 Keisuikan
- ㉘学生会館 (本館) Student Union (Main Bldg) / クラブサークル部室、練習場、会議室、シャワー室、新町ショップ、ラウンジ、購買
- ㉙新町別館 Shimmachi Bekkan

# 京田辺校地 Kyotanabe Campus

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/kyotanabe/overview.html>

1986年、京田辺市（京都府南部）の地に開校。  
 総面積79万㎡の広大な敷地に、NMR（核磁気共鳴装置）、クリーンルームや電波暗室といった実験施設を有する理工学部棟、機械実習工場や各種実験棟、人工環境制御室など、次世代の技術開発や研究に必要な最先端の実験設備・機器がそろそろほか、マルチメディアライブラリーを備えたラーネット記念図書館、同志社ローム記念館や情報メディア館など、大規模な情報教育設備も整えられた学舎は、煉瓦タイルで統一され、周りの景色と美しく調和しています。また、各種競技場から合宿施設まで、充実したスポーツ環境を備えています。  
 京田辺キャンパスでは、約9,000人が学生生活を送っています。  
 Kyotanabe Campus opened in 1986 in Kyotanabe City (southern Kyoto Prefecture).  
 Set amid extensive grounds covering 790,000 m<sup>2</sup>, Kyotanabe Campus buildings feature integrated design with brick tiles, and harmonize beautifully with the surrounding scenery. The campus includes the Faculty of Science and Engineering building, which contains experimental facilities such as an NMR unit (Nuclear Magnetic Resonance), a Clean Room and an anechoic chamber. There are machine workshops for hands-on experience, and other buildings for diverse experimental purposes. An artificial environment chamber is among the many advanced experimental facilities and equipment needed for next-generation technological development and research. Furthermore, the campus offers large-scale information education facilities including the Learned Memorial Library equipped with a multimedia library, the Doshisha Rohm Memorial Hall and the IT & Media Center. Additionally, there is a rich sports environment complete with everything from a stadium for diverse sports to training camp facilities.  
 Some 9,000 people are currently enjoying student life at Kyotanabe Campus.



## 同志社の革新性を表す理想の学習環境

Offering an ideal learning environment, which embodies Doshisha's spirit of innovation.

- ① 真誠館 Shinseikan / 体育関係の練習場
- ② 磐上館 Banjokan / スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室
- ③ デイヴィス記念館 Davis Memorial Auditorium / 体育館兼講堂
- ④ 紫苑館 Shionkan / 食堂、メディアショップ
- ⑤ 香知館 Kochikan
- ⑥ ラウンジ棟 Lounge / 京田辺キャンパス教務センター、スポーツ支援課
- ⑦ 理化学館 Science Building (Rikagakukan) / 理工学部・理工学研究科事務室
- ⑧ 創考館 Sokokan / 共同実験棟
- ⑨ 香柏館 Kohakukan / 心理学部・心理学研究科事務室、グローバル・コミュニケーション学部事務室
- ⑩ 厚生施設 Welfare Facilities / 食堂、おいしんボ横丁、購買、書籍店舗、プレイガイド
- ⑪ 知真館3号館 Chishinkan3
- ⑫ 恵道館 Keidokan
- ⑬ 慎真館 Shoshinkan / 情報教室

- ⑭ ラーネット記念図書館 Learned Memorial Library
- ⑮ 京田辺別館 Kyotanabe Student Union / 文化系クラブ・サークルBOX、音楽・演劇総合練習場（音楽・コーラス・演劇各練習場、アトリエ、会議室など）
- ⑯ 知真館2号館 Chishinkan2 / 歴史資料館
- ⑰ 知真館1号館 Chishinkan1 / カウンセリングセンター
- ⑱ 嗣業館 Shigyokan / 学生支援センター、キャリアセンター
- ⑲ 交隣館 Korinkan / 講師控室、ラウンジ、共同研究室
- ⑳ 同志社ローム記念館 Doshisha Rohm Memorial Hall / プロジェクトルーム、国際センター
- ㉑ 情報メディア館 IT & Media Center / 情報教室、ITサポートオフィス
- ㉒ 新島記念講堂 Neesima Memorial Auditorium
- ㉓ 夢告館 Mukokukan / 文化情報学部・文化情報学研究科事務室
- ㉔ 光喜館 Kokikan
- ㉕ 恵喜館 Keikikan
- ㉖ 業成館 (D-egg) Gyoseikan
- ㉗ 医心館 Ishinkan / 生命医科学部・生命医科学研究科事務室
- ㉘ 知証館北館 Chishokan / 機械系実験実習棟、機械実習工場、機械実習工場別棟
- ㉙ 知証館南館 Chishokan / 自然系等実験実習棟、電気系実験実習棟
- ㉚ 訪知館 Hochikan / 脳科学研究科事務室
- ㉛ 言館 KOTOKA-KAN / 礼拝堂
- ㉜ 光館 HIKARI-KAN / キリスト教文化センター

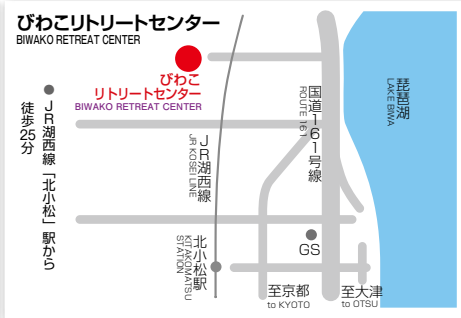
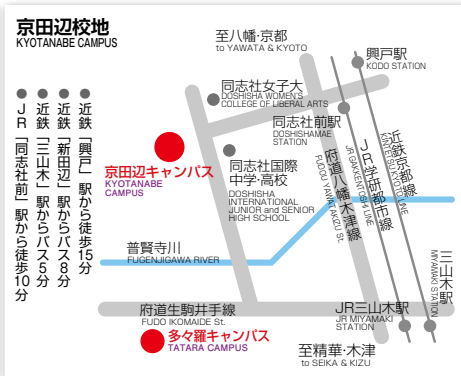
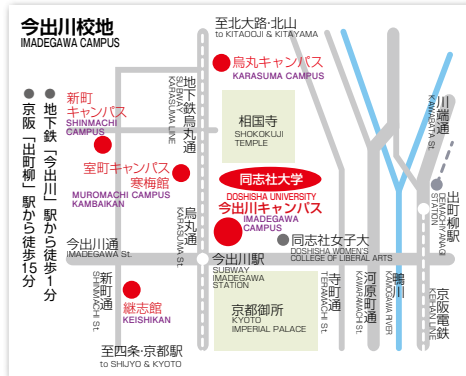
同志社  
京田辺会堂

# アクセスマップ Access map

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>

# 同志社大学アクセスマップ DOSHISHA UNIVERSITY ACCESS MAP

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>



**Access** Doshisha University has two main campuses; Imadegawa and Kyotanabe. Imadegawa campus is next to the Kyoto Imperial Palace, and located in the central part of Kyoto city. Kyoto is also a student city where a number of universities are gathered, and provides a comfortable atmosphere in which to live and study, enhanced by the city's seasonal and traditional delights.

- 1 **Imadegawa campus** From JR Kyoto Station, take the Subway Karasuma Line bound for Kokusai Kaikan. Get off at Imadegawa. The campus is just outside the station. (travel time: 10minutes)
- 2 **Kyotanabe campus** From JR Kyoto Station, take the Kintetsu Kyoto Line to Shintanabe, and take a bus to Doshisha Seimon-mae. (travel time: 35 minutes)
- 3 **Gakentoshi campus** From JR Kyoto Station, take the Kintetsu Kyoto Line to Kizugawadai and walk 13 minutes. (travel time: 60 minutes)
- 4 **Osaka Satellite / Office** 3 minute walk from Higashi-Umeda Station (Subway Tanimachi Line) / 3 minute walk from Umeda Station (Subway Midosuji Line) / 3 minute walk from Kitashinchi Station (JR) / 3 minute walk from Osaka Station (JR)
- 5 **Tokyo Office** 3 minute walk from Takaramachi Station (Subway Toei Asakusa Line) / 3 minute walk from Ginza 1-chome Station (Tokyo Metro Yurakucho Line) / 1 minute walk from Kyobashi Station (Tokyo Metro Ginza Line) / 6 minute walk from Tokyo Station (JR / Yaesu South Exit)



※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで約55分

JR  
東京 ● ▼  
東京オフィス

# Scholarships

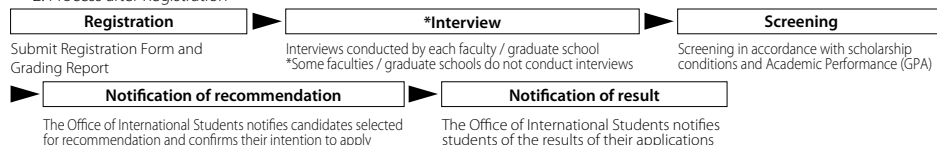
## \*6. Other Scholarships

There are also "Doshisha University Endowment Scholarship" (excluding Law School and Graduate School of Business), "Doshisha University Graduate School Special Scholarship" (excluding Law School, Graduate School of Business and Graduate School of Brain Science) "Doshisha University Graduate School of Brain Science Special Scholarship" and "Doshisha University Graduate School Scholarship for Young Doctoral Students/Researchers"; but these scholarships are awarded on the basis of recommendations from each Faculty and Graduate School, rather than open application. The university also operates a short-term loan system to assist Regular Students experiencing difficulty in continuing their study in Japan owing to a temporary inability to meet living expenses or other exigent circumstances (such as sudden illness, fire or other disaster). If you find yourself in this kind of situation at any time after you enroll, please consult with the Department of Student Life.

\*When applying for a loan, you will need to nominate a sponsor residing in Japan or other comparable individual as guarantor for your loan. Students cannot be guarantors, even if they are Doshisha University students aged 20 or over.

## \*7. Outside Scholarships

- (1) Application for scholarships requiring university recommendation: Notes for regular undergraduate and graduate students
1. Submit the "Doshisha University Privately Financed International Student Scholarships Application Registration Form" ("Registration Form")
  2. Process after Registration



Eligible Applicants	Registration period	Expiration date
Students enrolled in or before the Academic Year 2014	March 30(mon)~April 3(Fri), 2015	At the end of April 2016
Students who entered in April 2015	April 1(Wed)~April 3(Fri), 2015	
Students who entered in September 2015*	September 28(Mon)~October 2(Fri), 2015	At the end of April 2016

\*Newly enrolled International students in September 2015: This registration effects until the end of April 2016. From the following year, you need to register in early April and it will effect for one year.

Rather than submitting applications separately for each scholarship requiring university recommendation, students submit a single Registration Form and will then be considered for all such scholarships available in the subsequent one year period. The Committee for International Affairs will nominate candidates for recommendation based on the conditions attached to each scholarship (specification of faculty / graduate school, etc.) and on the academic performance (GPA) of each candidate.

After the candidates have been selected, the Office of International Students will notify the selected candidates of such nomination by phone. If the recommendation is agreeable, the candidate is required to submit the necessary documentation for application to the Office of International Students by due date. After checking the documentation, the Office of International Students will send them to the foundation or organization providing the scholarship. The Office of International Students will notify the candidates of the outcomes of their applications and provide further direction.

- Notes:
- Students who forget to register will be disqualified from consideration for scholarships requiring University recommendation for 2015.
  - Please report to the Office of International Students if there is any change to the information you put on the registration form.
  - The application for scholarship for 2016 will be available around from Fall 2015. We recommend students to submit the Registration Form even if you already have been awarded a scholarship in 2015.

(2) Scholarship application for Special Undergraduate and Graduate Students  
Virtually all scholarships requiring university recommendation are for Regular Students only, so there is no need for Special Students to submit the Registration Form. When the Office of International Students receives information on scholarships for which Special Students may apply, details will be announced via message boards and the university website.

(3) Scholarships for individual application by students  
Whenever a call for application for a scholarship is received by the Office of International Students, information will be posted on message boards and the website. Specific inquiries and applications should be directed to the organization operating the scholarship in question.

## \*8. Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Students of the Intensive Japanese Language Program "Bekka"

**Eligible applicants:**  
Students of the Intensive Japanese Language Program "Bekka" who demonstrate excellent academic performance and personal qualities.

**Issuance of scholarship:**  
The scholarship will be applied to the payment of tuition due in the second semester after enrollment.

**Duration of scholarship:** 1 year

**Amount of scholarship:**  
(1) Equivalent to 50% of tuition (2) Equivalent to 30% of tuition (3) Equivalent to 20% of tuition

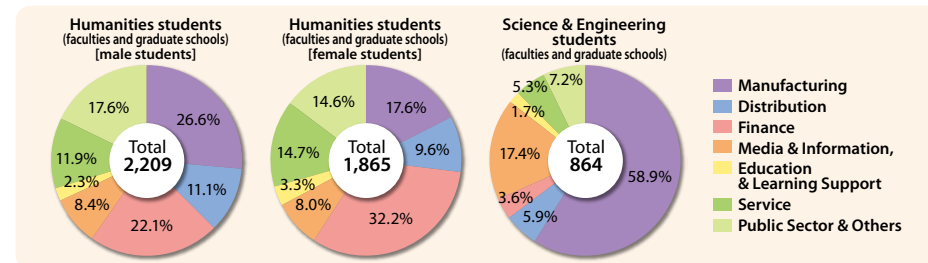
**Application period:**  
Late June (for Spring entrants) or mid January (for Fall entrants)

**Where to apply:** Office of Center for Japanese Language and Culture

# Supporting Students' Career Goals

## Employment opportunities in 2014

The result of employment in April 2014, we keep a high employment rate 96.5% male, 97.9% of female. And 92% of all students answered "Highly satisfied" or "Satisfied" in employment questionnaire.



## Preparation for Professional Qualifications

▼Number of successful applicants who passed the chartered accountant examination in 2014 by university

Rank order	Name of University	No. who passed the national bar exam
1	Keio University	120
2	Waseda University	94
3	Chuo University	87
4	Meiji University	69
5	Doshisha University	43
6	Ritsumeikan University	29
6	Kansai University	29
8	Kwansei Gakuin University	28
9	Hosei University	27
9	Kobe University	27

### Accountant Program

This program offers a systematic understanding of comprehensive and widely applicable knowledge in accounting, which helps students prepare for several qualifying examinations, including Certified Public Accountant (CPA), Licensed Tax Accountant, and other accounting qualifications. It is designed to allow students to learn in a stepwise manner, so that those without background knowledge in accounting can participate in the program.

A successful pass rate among Doshisha students taking the CPA Examination has enabled the university to regularly rank among the top 10 universities in Japan. In 2014, for example, 43 Doshisha students passed the CPA Examination, which ranked Doshisha fifth among Japanese universities.

\*No. of Successful Candidates in the Second-stage CPA Exam by University  
\*According to the survey conducted by CPA-Mitakai (a CPA organization of Keio University alumni)

### Legal Profession Program

This is the Faculty of Law's extracurricular program operated under the guidance of legal professionals who graduated from Doshisha University and the faculty members of Doshisha University Law School. The program offers information and knowledge regarding the work of legal professionals, an entrance examination of Law School, and a preliminary bar examination. To support students preparing for the examination, it also offers seminars on legal subjects and how to address the examination paper, as well as meetings with those who have already passed a bar exam.

## Major employers

- Construction, Real estate**  
Obayashi Corporation  
Sekisui House, Ltd.  
Daiewa House Industry Co., Ltd.  
Takenaka Corporation
- Manufacturing**  
Asahi Kasei Group  
Astellas Pharma Inc.  
Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.  
Kirin Company Limited  
Canon Inc.  
KYOCERA Corporation  
Kobe Steel, Ltd.  
Suntory Holdings Limited  
Shiseido Company, Limited  
Sharp Corporation  
SUZUKI MOTOR CORPORATION  
DAIKIN INDUSTRIES, LTD  
Dai Nippon Printing Co., Ltd.  
Takeda Pharmaceutical Company Limited  
DENSO CORPORATION  
TOSHIBA CORPORATION  
TOYOTA MOTOR CORPORATION  
NEC Corporation  
Nintendo Co., Ltd.  
Hitachi, Ltd.  
Fuji Xerox Co., Ltd.  
FUJITSU LIMITED  
Honda Motor Co., Ltd.  
Panasonic Corporation  
Bandai Co., Ltd.  
Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
- Mitsubishi Electric Corporation  
Murata Manufacturing Co., Ltd.  
LIXIL Corporation  
ROHM Co., Ltd.  
Wacoal Corp.  
**Logistics**  
AEON RETAIL CO., LTD  
ITOCHU Corporation  
SUMITOMO CORPORATION  
Sajitz Corporation  
Daimaru Matsuzakaya Department Stores Co. Ltd.  
Takashimaya Company, Limited  
Marubeni Corporation  
Mitsubishi Corporation  
UNIQLO CO., LTD.  
**Finance, Insurance**  
The Sanshu Ikeda Bank, Ltd.  
SMBC Nikko Securities Inc.  
The Bank of Kyoto, Ltd.  
THE SHIGA BANK, LTD  
Sampo Japan Nipponkoa Insurance Inc.  
The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited  
Daiwa Securities Group Inc.  
Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd.  
The Nanto Bank, Ltd.  
Japan Finance Corporation  
Nippon Life Insurance Company  
Nomura Securities Co., Ltd.  
Mizuho Financial Group Inc.  
Sumitomo Mitsui Card Company, Limited  
Mitsui Sumitomo Insurance Company, Limited  
Sumitomo Mitsui Banking Corporation
- Sumitomo Mitsui Trust Bank, Limited  
The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.  
Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation  
Japan Post Bank Co., Ltd.  
Resona Holdings, Inc.  
**Newspaper, Publication, Advertisement**  
The Asahi Shimbun Company  
Kobe Shimbun Co., Ltd.  
SANKEI SHIMBUN CO., LTD.  
Jiji Press Ltd.  
**CHUGOKU SHIMBUN**  
The Chunichi Shimbun  
Dentsu Inc.  
Nikkei Inc.  
Hakuhodo Inc.  
Benesse Corporation  
The Yomiuri Shimbun  
The Yomiuri Shimbusu, Osaka  
**Broadcasting**  
TV Asahi Corporation  
Kansai Telecasting Corporation  
Kyoto Broadcasting System Company Limited  
CHUBU-NIPPON BROADCASTING CO., LTD  
Television Osaka, Inc  
TSS-TV Co., Ltd.  
Japan Broadcasting Corporation  
Maimichi Broadcasting System, Inc.  
Yomuri Telecasting Corporation  
**Information telecommunication**  
NTT Communications Corporation  
NTT DATA Corporation  
NIPPON TELEGRAPH AND TELEPHONE WEST CORPORATION
- Soft Bank Group  
Nomura Research Institute, Ltd.  
**Transportation**  
Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.  
All Nippon Airways Co., Ltd.  
Central Japan Railway Company  
West Japan Railway Company  
Japan Airlines Co., Ltd.  
Nippon Express Co., Ltd.  
Nippon Yusen Kabushiki Kaisha  
**Public service, etc**  
H.I.S. Co., Ltd.  
Osaka Gas Co., Ltd.  
Oriental Land Co., Ltd.  
ORIX Corporation  
The Kansai Electric Power Corporation Incorporated  
JTB Corp.  
Chubu Electric Power Co., Inc.  
Recruit Holdings Co., Ltd.  
**Civil servant, teaching, other educational institute**  
Government official (comprehensive)  
Government official (general)  
National tax officer  
Court official (general)  
Osaka City  
Osaka Prefecture  
Kyoto City  
Kyoto Prefecture

# Scholarships

Doshisha University offers a variety of scholarships to enable international students to concentrate on their studies free from financial concerns. Recipients of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (in Japanese, the Monbukagakusho, or MEXT) scholarship are not allowed to receive any other scholarships/grants during the term of their MEXT scholarship. Therefore, please note that the recipients of MEXT scholarship are not eligible to apply for the scholarships/grants listed below.

## \*1. Doshisha University International Student Scholarship (Eligible Applicants: Students enrolled in or before the academic year 2011)

The purpose of "Doshisha University International Student Scholarship" is to promote international exchange and to support outstanding international students who are eager to study.

### Eligible Applicants :

- Applicants must be international students (Regular Students) in an undergraduate faculty, or Institute for the Liberal Arts.
- Applicants may not have been enrolled for more than 4 years (2 years for 3rd year transfer students, 3 years for 2nd year transfer students). Period of leave of absence shall not be counted towards the number of years enrolled.
- Those who fulfill the following requirements regarding minimum total credits earned by 2014 academic year prior to application.

Period of attendance	One year	One year and a half	Two years	Two years and a half	More than three years
Minimum credits	At least 30 credits	At least 50 credits	At least 65 credits	At least 80 credits	Prospective graduate

※The period of attendance is as of April 2015

The following students are excluded according to the rules.

- Students enrolled in and after the Academic Year 2012 (including transfer students)
- Students who take a leave of absence during the spring semester of 2015

**Duration of scholarship :** One year

**Amount of Scholarship :** 120,000 yen annually

**Selection :** To be made based on each applicant's academic performance and financial circumstances.

**Application Period :** March 25 (Wed) to April 1 (Wed), 2015

**Where to apply :** Counter at the Department of Student Life

Imadegawa Campus: 1F, Kambaikan Bldg.

Kyotanabe Campus: 1F, Shigyokan Bldg.

**Number of Recipients last academic year :** 89 students

## \*2. Doshisha University Graduate School Scholarship

This program aims to support for students enrolled in Master's or Doctoral programs who are experiencing difficulty meeting educational costs to continue their academic research activities.

**Eligible Applicants :** Graduate students (Regular Students)

Note: Students of Law School and Graduate School of Business cannot apply.

**Duration of scholarship :** One year

**Amount of scholarship :** An amount equal to one half the total annual tuition

**Selection :** To be made based on recommendations from each Graduate School

**Application period :** April 1 (Wed) ~ 10 (Fri), 2015, April 3 (Fri) ~ 10 (Fri), 2015 for newly enrolled students

**Number of Recipients last academic year :** 17 students

※Applications should be made on the website. We update the information from late March, 2015. Please check our scholarship website for more information.

※Students selected to receive "Doshisha University Graduate School Scholarship for Young Doctoral Students/Researchers", "Graduate School of Brain Science Special Grant" "Japanese Government (MEXT) Scholarship", "Doshisha University Graduate School Reduced Tuition Special Scholarship for Self-Funded International Students", "Scholarship equivalent to or exceeding the amount of tuition from foreign governments, foreign universities or foundations overseas", or "Special Grant for Students on the Advanced Doctoral Program in Global Resource Management" cannot apply for this Scholarship. (Double benefits are not allowed.)

## \*3. Doshisha University Undergraduate Awards for Distinction

**Eligible Applicants :** Regular Students enrolled in undergraduate programs

**Duration of scholarship :** One year

**Amount of scholarship :** 300,000 yen (awarded to 100 students across all Faculties)

※ Applications are not accepted from students receiving internal university grant (non-loan) scholarships equivalent to the value of total tuition.

※ Inquiries should be addressed to the Department of Student Life.

## \*4. Doshisha University Reduced Tuition for Self-Funded International Students (The Admission fee, fee for Educational Support, Lab/Practical Fees, and fees for academic associations are not included)

### <Graduate Students>

• Doshisha University Graduate School Reduced Tuition Special Scholarships for Self-Funded International Students

**Amount of Scholarship/Number of Recipients :** Equivalent to full amount of tuition/ from 20 to 30% of international students

※ The number of recipients varies according to the Graduate School.

• Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Self-Funded International Students

**Amount of Scholarship/Number of Recipients :**

- Equivalent to 50% of tuition/ from 30 to 40% of international students
- The number of recipients varies according to the Graduate School.
- Equivalent to 30% of tuition/ approximately 40% of international students

[Note]

※ The reduction rate is determined by considering such factors as entrance examination results and research plans.

### <Undergraduate Students>

• Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Self-Funded International Students

**Amount of Scholarship/Number of Recipients :**

- Equivalent to 50% of tuition/approximately 30% of international students
- Equivalent to 30% of tuition/approximately 30% of international students
- Equivalent to 20% of tuition/approximately 40% of international students

[Note]

※ The reduction rate is determined by entrance examination results.

### [Common Conditions]

#### Eligible Applicants

- (1) Those who have passed the entrance examination for international students and hold a "Student" resident status.
- (2) Those who have passed the entrance examination for international students, and hold a "Permanent Resident", "Long-Term Resident", "Spouse or Child of Japanese National" or "Spouse or Child of Permanent Resident" resident status.
- (3) Those who are enrolled in Doshisha University, regardless of type of entrance examination and who hold a "Student" resident status.(applicants'eligibility will be preliminarily screened.)

#### Duration of Scholarship

Two years after admission (renewable for up to the standard number of years required for graduation in students who meet certain standards of academic performance). **In being renewed, the reduction rate may be changed depending on academic performance.**

#### Renewal (additional application is not necessary)

	Time	Conditions
Graduate Students (students of doctoral program/combined doctoral program, or students admitted into the Doshisha Law School with no basic understanding of law at the undergraduate level at their entrance)	At the end of the second year of study ※	*The scholarship might be withdrawn if beneficiaries are determined to be inappropriate as recipients by the deans of the graduate schools. *Otherwise, recipients shall receive the same rate of tuition reduction as they received until the end of the second year.
Undergraduate Students		*To be made based on academic performance by the end of the second year. *International students whose GPA is 1.50 or less or who have earned half the maximum number of credits allowed or less are not eligible to renew their scholarships.

※ The duration of the scholarship is up to the standard number of years required for graduation. (However, time taken off for military leave is excluded.)

[Notes]

- 1) As a rule, recipients are not able to receive other scholarships for tuition at the same time.
- 2) As a rule, the period of leave of absence is included in the duration of scholarship. However, this shall not apply to a military leave.
- 3) Not applicable to the recipients of "Doshisha University Graduate School Scholarships for Young Doctoral Students/Researchers", "Doshisha University Graduate School of Brain Science Special Scholarships".
- 4) Renewal condition for the recipients of "Doshisha University Undergraduate School International Students Course Scholarships" or International students from designated schools overseas who have been entered by the admission-on-recommendation system and the special recommendation system in collaboration between the Faculty of Letters, Doshisha University and designated foreign-language high schools shall be specified separately.
- 5) In case the recipients do not meet the academic requirements for renewal because they have studied at Waseda University or a university overseas under our university-level student exchange program, the renewal conditions shall be specified separately.

## \*5. Scholarship for Students from Developing Countries

\*Application for this Scholarship must be made at the same time as the application for the Entrance examination for international students.

### •Eligible Applicants:

Applicants must fulfill the following two conditions:

- (1) Those who will obtain "Student" resident status by the "Immigration Control and Refugee Recognition Act" after being admitted to Doshisha University.
- (2) Those who reside in one of the countries classified as "Least Developed Countries" or "Other Low Income Countries" in the list of ODA Recipients published by OECD/DAC and hold the nationality of one of those countries.

### •Method of Selection:

Recipients are determined in accordance with the standards specified by Doshisha University.

### •Duration of Scholarship:

For two years after admission (The duration of scholarship may be renewed for up to 4 years.) In principle, the period of leave of absence is included in the duration of scholarship. However this shall not apply to military leave.

### •Amount of Scholarship:

- (1) 85,000 yen per month
- (2) The admission fee, tuition, fee for Educational Support, Lab/Practical fees, and other fee are included.

### •Number of Recipients:

2 students per year (One from each semester's entry)

### •Renewal

- (1) Students enrolled before the Academic year 2013  
Recipients whose overall GPA is 2.0 or above at the end of the second year are eligible to renew their scholarship up to the standard number of years required for graduation. For recipients whose overall GPA is less than 2.0, the Doshisha University Reduced Tuition Scholarship for Self-Funded International Students is applied by the faculty.
- (2) Students enrolled in and after the Academic Year 2014  
Recipients whose overall GPA is 2.0 or above and have earned at least 50 % of credits required for graduation at the end of the second year are eligible to renew their scholarship up to the standard number of years required for graduation. For recipients whose overall GPA is less than 2.0 or who have not earned 50 % of credits required for graduation, the Doshisha University Reduced Tuition scholarship for Self-Funded International Students is applied by the faculty.



# Research

## Organization for Research Initiatives and Development

### Base for Advanced Education and Research

The base is composed of five research centers that are centers of excellence in education and the core of the university's advanced education researches.

Base for Advanced Education and Research		As of April 1, 2015
● Center for Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions [CISMOR]	● Life Risk Research Center	
● Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness [ITEC]	● Center for Baby Science	
● Research Center for Energy Conversion System		

### Research Centers

The Research Centers aim to set out a new direction of contemporary applied research and foster young researchers in collaboration with research education of the graduate schools, in addition, the active period of each center is limited so that a rigorous evaluation of the research results can be undertaken.

Research Centers		As of April 1, 2015
● Center of Infrastructures Research	● Research Center for Advanced Bio-Mechanics	
● Research Center of Applied Electromagnetic Energy	● Center for the Study of the Creative Economy	
● Higher Education and Student Research Center	● Research Center for Adipocyte & Muscle Science	
● Center for Knowledge Science in Cultural Heritage	● Physical Fitness and Sports Medicine Research Center	
● Research Center for Criminology	● The Amami-Okinawa-Ryukyuu Research Center	
● Center for Korean Studies	● Medical Ultrasound Research Center	
● Innovative Computing Research Center	● Research Center for Psychological Science	
● Mobility Research Center	● Research Center for Highly-functional Nanoparticles	
● Research Center for International Transactions and Law	● Research Center for Kyoto and tea culture	
● Wave Electronics Research Center	● Research Institute for Plantations in Southeast Asia	
● Center of Neurological Disorder Research	● Advanced Biomedical Engineering Research Center	
● Research and Development Center for Advanced Composite Materials	● Research Center for Bioethics Governance	
● Center for Neurologic Diseases	● Advanced Biomaterial Research Center	
● Research Center for New Energy Conversion Materials	● Center for Study of Consciousness	
● Tube Radial Distribution Phenomenon(TRDP) Research Center	● Center for Research in Public Services	
● Therapeutic Systems Research Center	● Center for Social Wellness Studies	
● Research Center for Nano-Bioscience	● Center for Wing of Empirically Supported Treatments (WEST)	
● Doshisha Center for Civil Diplomacy (DCCD)	● Systems Neuroscience Research Center	

### Research Projects for External Grants

The projects aim to activate and diversify education and research activities funded by individuals, foundations and corporations. Being part of the Organization for Research Initiatives and Development with the Research Centers, the projects seek to form a platform for promoting innovative research.

Research Projects for External Grants		As on April 1, 2015
● Anti-aging Medical Research Center	● Glycation Stress Research Center	
● Research Center for Inflammation and Regenerative Medicine	● Research Center for Medical Science Based on Natural Products	

### Research Administration Center

Providing support in diverse areas is indispensable for securing assessment as an international university. These include planning of R&D strategies and promotion of industry-government-academia collaboration, gathering information from and negotiations with domestic and foreign institutes and enterprises, and progress management of large-scale projects. The Research Administration Center unifies management of R&D advancement within this university. The objective of the Center is to contribute to enrichment of university research activities by providing and enhancing an environment in which researchers can concentrate fully on their research activities.

### University Industry Liaison Office

The University Industry Liaison Office is the point of contact between the university, enterprises and local communities. The objective is broad collaboration with society based on disclosure of intellectual resources held by university personnel, and the yields of research. As a university-wide organization, the Liaison Office aims for creation of new industries and business, while responding to needs of interdisciplinary projects jointly undertaken by industry, government and academia. Additionally, the Liaison Office engages in total coordination of the university's functions as a general university, and is enhancing the system for providing advice concerning technology and research, management consulting, and diverse other services.

### Intellectual Property Center

The Intellectual Property Center supports creation of intellectual properties including yields of education and research. More than simply protecting and expanding intellectual properties, the Center aims to give back to society, and contributes to society through application of these assets. The Intellectual Property Center supports creation of intellectual properties by students and university personnel, and maintains and manages intellectual property rights, while promoting application within society via business projects. The Center will continue to develop diverse activities, as an important base for injecting new vitality into society through application of the university's intellectual properties.

## Organization for Advanced Research and Education

The objective of the organization is to develop and implement the university's graduate school programs in collaboration with the World-class Educational Research Base. It aims to improve the sophistication of graduate school education by offering advanced and interdisciplinary programs including the Program for Leading Graduate Schools.

### ◆Program for Leading Graduate Schools "Global Resource Management (GRM)"

Selected for MEXT's Program for Leading Graduate Schools - Composite category (Pluralistic society) in FY 2012

The program aims to foster global leaders who possess a tenacious spirit and high ethical standards while acquiring interdisciplinary knowledge in Science and Engineering, including infrastructure science and resource and energy science, as well as studies in Humanities and Social Sciences related to multiculturalism.

# Supporting Students' Life

## Organization for Student Support Services

This center provides comprehensive support to all students to make their student life fulfilling and enjoyable.

### Support Student Development

- Transmit information on self-development
- Campus Community Building
- Various seminars

### Support for Disabled Students

- Guidance
- Note-taking
- Wheelchair help
- Computer interpretation

### Support for Extracurricula Activities

- Subsidies
- Loan of facilities

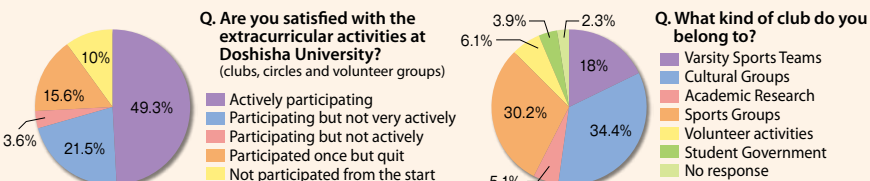
### Support Student Life

- Subsidize medical fees
- Introduction to part-time job
- Student dormitory
- Disaster and accident insurance for student education and research
- Introduction to boarding house

### Healthcare

- Counseling Center
- Health Center

### Student life on data



## List of the extracurricular activity groups (officially approved)

As on May 31, 2015

### Cultural group (18 categories)

	No. of clubs		
1 Art	6	10 Light music	8
2 Cheerign supporters	3	11 Media	5
3 Chorus	7	12 Musical instrument	5
4 Cultural 1	7	13 Natural science study	6
5 Cultural 2	4	14 Performance	5
6 Drama	4	15 Photography	4
7 Human science study	7	16 Social science study	4
8 Image	3	17 Traditional cultures	4
9 International study	8	18 Traditional performing arts	6
		<b>96 clubs</b>	

### Sports group (4 categories)

	No. of clubs
1 Indoor sports	11
2 Outdoor sports	7
3 Mountain climbing	4
4 Off-campus sports	5
	<b>27 clubs</b>

### Varsity Sports Teams

◎ Head Office	12 Board sailing	26 Judo	40 Softball
◎ Sports Atom	13 Boating	27 Karate	41 Speed skating
1 Aikido	14 Bowling	28 Kendo	42 Sumo
2 Alpine	15 Boxing	29 Kyudo	43 Swimming
3 American football	16 Canoeing	30 Lacrosse	44 Table tennis
4 Archery	17 Fencing	31 Nippon Kempo	45 Tennis
5 Athletics	18 Field hockey	32 Rifle shooting	46 Triathlon
6 Automobile	19 Figure skating	33 Rubber baseball	47 Volleyball
7 Aviation	20 Golf	34 Rugby	48 Wandervogel
8 Badminton	21 Gymnastics	35 Semi-hard baseball	49 Wrestling
9 Baseball	22 Hand ball	36 Shorinji kempo	50 Yacht
10 Basketball	23 Horse riding	37 Skiing	
11 Bicycle race	24 Iaido	38 Soccer	<b>52 clubs</b>
	25 Ice hockey	39 Soft tennis	

# Number of Students and Faculty / Staff

## Enrolled students

As of April 30, 2015

Faculty / Schools	Undergraduate students	Graduate students (1st half)	Graduate students (2nd half)	Graduate students (Integrated doctoral program)
	(No. of female students)	(No. of female students)	(No. of female students)	(No. of female students)
Theology	266 (143)	46 (21)	29 (11)	-
Letters	3,039 (1,958)	64 (34)	58 (26)	-
Social Studies	1,943 (1,052)	49 (38)	61 (30)	-
Law	3,735 (1,457)	126 (45)	36 (14)	-
Economics	3,865 (1,122)	20 (9)	18 (8)	-
Commerce	3,690 (1,489)	32 (19)	9 (2)	-
Policy Studies / Policy and Management	1,708 (806)	117 (68)	91 (33)	35 (10)
Culture & Information Science	1,285 (598)	30 (13)	15 (6)	-
Science & Engineering *1	3,398 (477)	765 (72)	69 (10)	-
Life & Medical Science	1,054 (367)	226 (54)	18 (5)	-
Health & Sports Sciences	876 (247)	15 (2)	6 (3)	-
Psychology	679 (422)	17 (9)	23 (15)	-
Global Communication	616 (408)	-	-	-
Global and Regional Studies	579 (397)	-	-	-
American Studies *2	-	-	4 (1)	-
Global Studies *3	-	70 (41)	70 (36)	-
School of Business	-	31 (14)	-	-
Brain Science	-	-	-	22 (12)
<b>Total</b>	<b>26,733 (10,943)</b>	<b>1,678 (439)</b>	<b>507 (200)</b>	<b>57 (22)</b>
Law School	-	143 (51)	-	-
Business School	-	118 (36)	-	-
<b>Grand Total</b>	<b>-</b>	<b>261 (87)</b>	<b>-</b>	<b>-</b>

Due to change of name of Faculty:

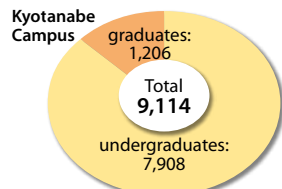
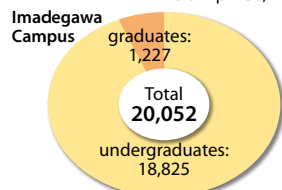
\*1 Incl. Number of students who entered Graduate School of Engineering before the faculty calendar of 2011

\*2 Number of students who entered before the faculty calendar of 2009

\*3 Number of students who entered after the faculty calendar of 2010

## Number of students in each campus

As of April 30, 2015



## Number of faculty and staff

As of May 1, 2015

Faculty			Administrative staff		
Full-time faculty	797	Part-time lecturers	1,529	Total	2,326
Full-time staff members	336	Part-time staff members	538	Total	874

## Number of degrees conferred

As of March 31, 2015

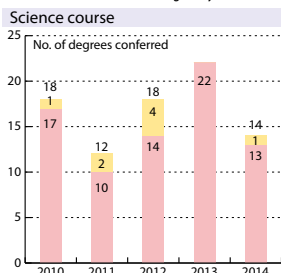
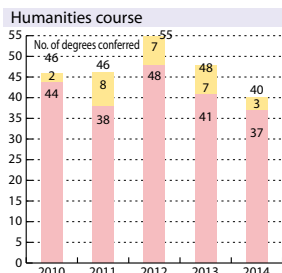
### Number of degree recipients in 2014

\*degree recipients in the spring semester included

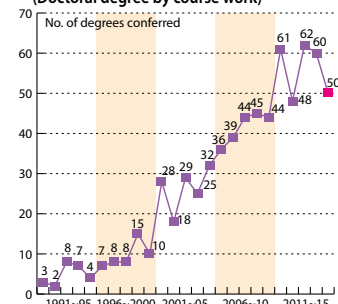
Department	Letters					Social Studies										Law				Total
	Theology	English	Philosophy	Aesthetics and Art Theory	Cultural History	Japanese Literature	Culture	Sociology	Social Welfare	Media	Industrial Education and Culture	Law	Political Science	Economics	Commerce	Policy Studies and Information Science	Culture and Information Science			
<b>Undergraduate</b>	82	341	54	72	121	116	0	89	108	98	90	72	650	225	883	896	446	262		
<b>Graduate School</b>	11	27	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	78	17	15	37	24	-		
Doctor (1st half) / Master	11	27	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	78	17	15	37	24	-		
Doctor (2nd half)	2	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	1	3	10	2	-		
Integrated Doctoral Program	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-		
Professional	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-		

### Number of Doctoral degrees conferred for past five years

Doctoral degree by dissertation  
Doctoral degree by course work



### Changes in the number of degrees conferred (Doctoral degree by course work)



\*Humanities: Total number of degrees conferred in graduate schools except for the Schools of Engineering and Life and Medical Sciences.  
\*Science: Number of degrees conferred in the Schools of Engineering and Life and Medical Science.

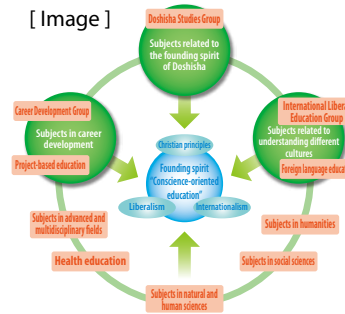
# Education

## General and Liberal Education

General and Liberal Education is part of the liberal education curriculum available to all undergraduates at Doshisha University. Based on the university's educational ideals of "Christian principles," "liberalism" (autonomy and independence), and "internationalism," it is comprised of a large number of stimulating subjects.

Our current curriculum includes English classes based on students' proficiency, "Intensive Courses for TOEFL," overseas internship programs and more, with the aim of fostering individuals who can play an active role in global society.

We are also preparing to set up the "Global Liberal Arts Minor Course" (\*title is subject to change), beginning in 2016. In this course, students are educated to become individuals with a global awareness with advanced English skills and wider, pluralistic perspectives. In addition, we are exploring the establishment of "Doshisha Intensive English Program" which not only trains students to be able to participate in classes conducted in English and in study abroad programs, but also offers an opportunity to acquire the language skills to be able to play an active role in the global community.



## Project Program

Established in 2006, the Project Program is part of the General and Liberal Education curriculum and based on Project-Based Learning (PBL). Unique from the conventional lecture style, PBL emphasizes practical and participatory learning opportunities. The "educational power" of local communities and businesses is introduced into the regular university curriculum, with people from outside being invited to propose and then speak on particular themes. PBL helps students to acquire real-world awareness and skills. At the same time, we aim to cultivate a perspective of on-site learning, and practical skills in detection and resolution of problems. In effect, the objective of PBL is to nurture comprehensive human abilities.

### Some of the themes of the project program adopted in 2015

- Producing a new type of Kyoto souvenir – globally appealing souvenir project
- Doshisha Students Present "GLOCAL" Project - Internationalism and Community Program
- Picture Book Hyakka – A project to help a reader find their favorite book
- Passing down Kyoto's traditional textiles – Textile Culture Business Project
- Hands-on Marketing Learning Project in advertising and promoting ticket sales for professional sports
- Project for building a sustainable community to withstand disasters
- Assistance Dog Guidebook Project
- Project for designing intellect-training toys for children, offering a joyful learning experience
- Project for enhancing people's health in Kyotanabe with Eastern medicine
- Local community revitalization project II utilizing vacant storefronts – The Ripple Effect



## Organization for Promotion of Global Cooperation

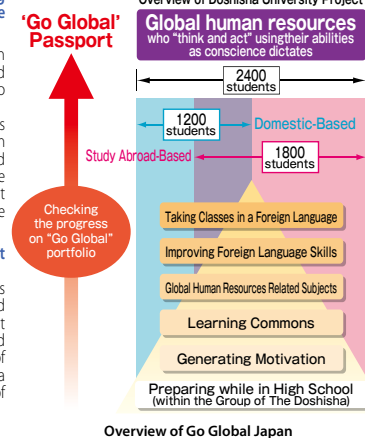
Post-project evaluation of Global 30 (a government-sponsored project promoting formation of networks to further internationalization of universities), and future development

Doshisha University was selected to take part in a project to provide high quality education befitting the functions of a university, and an environment that allows students from abroad to easily study in Japan. The university then developed programs enabling students to obtain a degree using English and promoted a support environment for foreign students. The outcome was a rapid increase in the number of students from abroad attending this university and students sent from here to study overseas. We thus gained a firm foothold on the path to realizing our original goal – "Creation of a center for international education and research." The 5-year supplementary period (2009-2013) has ended and, following the interim evaluation in March, 2015, our effort was again assessed with an "S," the highest evaluation, at its completion. Doshisha will continue to advance internationalization of the university and Japan.

### Promoting further measures by [Go Global Japan], a global human resources support initiative that aims to advance development of economic society.

This university was selected to take part in Go Global Japan, an initiative that supports cultivation of human resources with the ability to actively take on challenges on the world stage. Doshisha is vigorously advancing construction of related programs and support systems. These programs and systems aim to cultivate in people the ability to "listen to and follow the inner voice." The foundation of this ability is established through completion of subjects and various experiences and encounters, through knowledge acquired via operational capability in foreign languages and specialized education, and development of a mind able to accept diverse perspectives of values.

Based on support systems and university environment built through Global 30 projects, and on Go Global Japan measures, the university contributes to globalizing society by cultivating people who are able to work actively on the global stage.



# More Information on Faculties and Departments

	Characteristics	Career Options
School of Theology	<ol style="list-style-type: none"> <li>One of the world's leading educational institutions teaching about Christianity, Islam and Judaism</li> <li>Nurturing individuals who can play an active role in the international community, aiming for the "coexistence of civilizations"</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Education, Social welfare</li> <li>Religious Ministry</li> <li>Major enterprises (service industry, trading companies, etc.)</li> <li>International organizations</li> <li>National and local government employees</li> </ul>
Faculty of Letters	<ol style="list-style-type: none"> <li>Students experience life and learning in Kyoto, where there is a long tradition of Japanese culture</li> <li>Traditionally, we are providing instruction in small groups</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Education, Social welfare</li> <li>Major enterprises (finance, publishing, service industry, etc.)</li> <li>National and local government employees</li> <li>Museum curator</li> <li>Librarian</li> <li>Advance to graduate school</li> </ul>
Faculty of Social Studies	<ol style="list-style-type: none"> <li>Theoretical study on social phenomena with a focus on the relationship between people and society</li> <li>Practical education emphasizing first-hand experiences with fieldwork and practical training</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Education, Social welfare</li> <li>National and local government employees</li> <li>Think tanks</li> <li>Major enterprises (mass media, service industry, banks, insurance companies, securities, etc.)</li> </ul>
Faculty of Law	<ol style="list-style-type: none"> <li>Offering Practical legal training and hands-on experience to facilitate law students' diverse career goals, including positions in corporate legal affairs and journalism</li> <li>Providing world-class legal education programs implemented in close cooperation with the graduate school</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Lawyer, Judge, Prosecutor</li> <li>National and local government employees</li> <li>Journalist</li> <li>Major enterprises (finance, distribution, manufacturing, etc.)</li> </ul>
Faculty of Economics	<ol style="list-style-type: none"> <li>Deepening one's understanding in economics and developing logical thinking as well as an understanding of policymaking.</li> <li>Responding to the developing information society with a solid IT education, we nurture individuals who can play an active role in the real world</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (finance, manufacturing, distribution, mass media, etc.)</li> <li>Think tanks, Consultant</li> <li>National and local government employees</li> <li>Certified public accountant, Certified public tax accountant</li> </ul>
Faculty of Commerce	<ol style="list-style-type: none"> <li>The number of applicants who have passed the examinations of CPA and CPTA ranks at the highest level among universities in the nation</li> <li>Practical courses by business people from various fields</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Certified public accountant, Certified public tax accountant</li> <li>Major enterprises (banks, insurance companies, securities, consulting companies, distribution, etc.)</li> <li>Corporate manager</li> <li>National and local government employees</li> </ul>
Faculty of Policy Studies	<ol style="list-style-type: none"> <li>Cultivating an ability to identify and solve a problem by oneself</li> <li>Providing a professional education where students can learn policy issues from a multilateral standpoint</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (planning, international and personnel divisions, etc.)</li> <li>National and local government employees</li> <li>NPOs, NGOs</li> <li>International organizations</li> </ul>
Faculty of Global and Regional Studies	<ol style="list-style-type: none"> <li>We develop human resources that can take a global perspective on social and cultural attributes in different regions as well as on various issues on a worldwide scale.</li> <li>Students will take one of three courses on Europe, Asia-Pacific or the Americas and learn the ability to manage the languages of the particular region.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Companies expanding overseas (manufacturing, trading companies, travel companies, etc.)</li> <li>National or local government employees (international affairs)</li> <li>Institutions involved in international exchange / aid (including NPOs and NGOs)</li> <li>Advance to domestic or overseas graduate school</li> </ul>

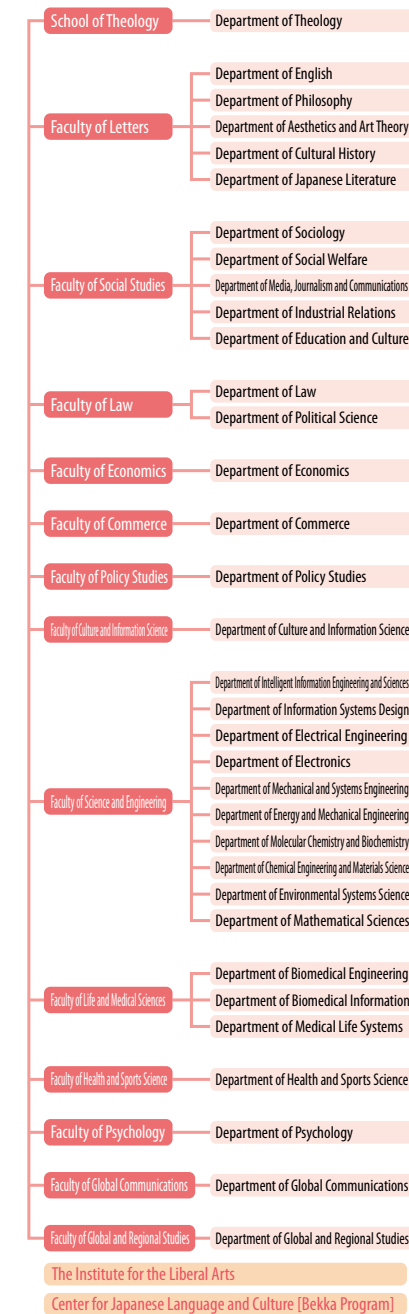
	Characteristics	Career Options
Faculty of Culture and Information Science	<ol style="list-style-type: none"> <li>Developing students' ability to analyze 'culture' and get a new perspective on it</li> <li>Cultivating a solid data analysis ability and an ability to fully utilize information</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (information analysis divisions at banks and trading companies, etc.)</li> <li>System engineer</li> <li>Think tanks</li> <li>Museum curator</li> <li>Advance to graduate school</li> </ul>
Faculty of Science and Engineering	<ol style="list-style-type: none"> <li>Providing thorough education of the fundamentals of science and engineering in order to respond to future technological innovation</li> <li>Equipped with world leading facilities</li> <li>More than 50% of the students go on to graduate school</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (technology and research divisions in communications, electronics components, semiconductors, machinery, electricity, automotive, chemical, etc.)</li> <li>Advance to graduate school</li> <li>International institutions</li> <li>National or local government employees</li> </ul>
Faculty of Life and Medical Sciences	<ol style="list-style-type: none"> <li>Development curriculum for biomedical engineers and researchers who will be key players in broad areas of life and medical sciences</li> <li>Providing multidisciplinary educational research programs covering engineering, medicine, basic biology and other fields</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (medical equipment, automotive, machinery, electricity, electronics, pharmaceutical, information &amp; communications, chemical, etc.)</li> <li>Advance to graduate school</li> <li>R&amp;D at private companies or government-funded research centers</li> <li>Education/welfare-related organizations</li> </ul>
Faculty of Health and Sports Science	<ol style="list-style-type: none"> <li>Educates experts who can help improve people's health and enhance the role of sports in society</li> <li>Provides a fully developed research environment in cooperation with research and medical institute inside and outside the University</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (medical, healthcare, food, sports-related)</li> <li>Health &amp; physical education teacher at junior / senior high school</li> <li>Local government employees involved in promoting sports</li> <li>Professional sports management</li> <li>Advance to graduate school</li> </ul>
Faculty of Psychology	<ol style="list-style-type: none"> <li>We provide well-organized and highly specialized education across three areas</li> <li>Developing students problem-solving skills by conducting a range of psychological experiments, and through project-based learning in small class settings</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (manufacturing, service industry, finance, trading companies, mass media)</li> <li>Education, Medical, Social welfare</li> <li>National or local government employees</li> <li>Advance to graduate school</li> </ul>
Faculty of Global Communication	<ol style="list-style-type: none"> <li>We develop refined practical foreign language ability. One-year Study Abroad is required (English/Chinese course)</li> <li>Nurturing individuals who can become talented facilitators, negotiators and administrators in the global area.</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Major enterprises (trading companies, finance, manufacturing, mass media, airlines, shipping, travel companies, etc.)</li> <li>NPOs, NGOs</li> <li>Interpreter, Translator</li> <li>Advance to graduate school</li> </ul>

# Academic Organization Chart

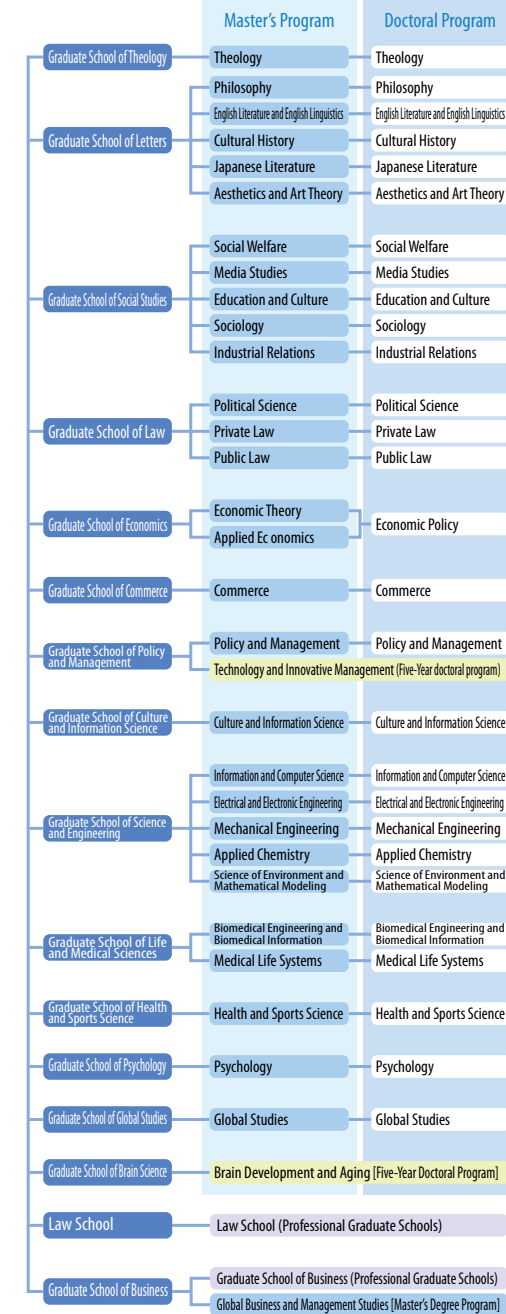
## History of Doshisha University

1875 Nov. 29	Doshisha Eigakko (Academy) established Joseph H. Neesima named first chancellor	1953 Apr.	The Doctoral programs established at the Graduate School
1876 Sep.	The first school buildings constructed on the Imadegawa campus	1954 Apr.	Doshisha Junior College discontinued 4-year evening courses (Faculties of Letters, Law, Economics, Commerce and Engineering) established
1884 Sep.	Shoeikan, the first brick building on campus, constructed (designated as an important cultural property)	1955 Apr.	The Master's program in Engineering established
1886 June.	Doshisha Chapel constructed (designated as an important cultural property)	1986 Apr.	The Tanabe campus (present Kyotanabe campus) opened
1887 Nov.	The library (present Yushukan) opened (designated as an important cultural property) Doshisha Hospital and Kyoto Training School for nurses established	1991 Apr.	Graduate School of American Studies established
1888 Nov.	The Purpose of the Foundation of Doshisha University announced in major newspapers and magazines.	1994 Apr.	Faculty of Engineering, the Graduate School of Engineering, and the Science and Engineering Research Institute move to the Tanabe Campus (present Kyotanabe Campus)
1890 Jan. 23	Neesima died in Oiso, Kanagawa Pref. (age 46)	1995 Apr.	Graduate School of Policy and Management established
July.	Harris Science Hall constructed, funded by J.N. Harris (designated as an important cultural property)	1999 Apr.	The Bekka Program established
Sep.	Harris Scientific School opened	2003 Apr.	Master's Program of Industrial Relations in the Faculty of Social Studies established
1891 Sep.	Doshisha School of Politics and Law established	2004 Apr.	Faculty of Policy Studies established Departments of Information Systems Design, and Environmental Systems Science in the Faculty of Engineering established Doshisha University Law School and Graduate School of Business established
1894 Jan.	Clarke Devinity Hall (present Clarke Memorial Hall) opening ceremony (designated as an important cultural property)	2005 Apr.	Faculty and Graduate School of Letters redesigned; Faculty and Graduate School of Social Studies established Faculty of Culture and Information Science established
1896 Apr.	Futsu Gakko (Regular School) renamed as Doshisha Koto Futsu Gakko (Doshisha Upper Regular School) Doshisha Jinjo Chugakko (Doshisha Junior High School) established	2006 Apr.	Doshisha Elementary School established
1904 Apr.	Doshisha Seminary and Doshisha College established under the College Law	2007 Apr.	Graduate School of Culture and Information Science established
1912 Apr.	Doshisha University (Preparatory Course, School of Theology, Faculty of Politics and Economics, and Department of English Literature) established under the College Law	2008 Apr.	Faculty of Engineering redesigned to Faculty of Science and Engineering Graduate School and Faculty of Life and Medical Sciences established Faculty of Health and Sports Science established
1920 Apr.	Doshisha University (Faculties of Letters, and Law, Graduate School, Preparatory Course) established under the University Law	2009 Apr.	Faculty and Graduate School of Psychology established
1922 Apr.	Doshisha University under the College Law reorganized and becomes Doshisha College (Theology, English teacher training, Commerce, Politics and Economics)	2010 Apr.	Graduate School of Global Studies established Graduate School of Health and Sports Science established
1944 Apr.	Doshisha Technical College (Telecommunication, Machinery, Chemical Engineering) established	2011 Apr.	Faculty of Global Communications established Doshisha International Academy Elementary School established Doshisha International Academy School, Kyoto established
1949 Apr.	Faculties of Commerce and Engineering established	2012 Apr.	Graduate School of Brain Science established
1950 Apr.	Graduate School of Theology, Letters, Law, Economics and Commerce established Doshisha Junior College (English, Commerce and Economics, and Engineering), night classes, established	2013 Apr.	Faculty of Global and Regional Studies established

### Faculties



### Graduate Schools



# Basis of Doshisha

## The Vision of Joseph Hardy Neesima

140 years ago, Joseph Hardy Neesima broke new ground in Japanese education and sowed the seeds of liberal learning in people's mind, which have been passed down over generations. Neesima's vision formed the basis of Doshisha, and has always been present as Doshisha has evolved.



Joseph Hardy Neesima (1843-1890)

### In the chaotic late Edo period, Neesima left Japan for Western countries with a dream and vision in his mind.

Joseph Hardy Neesima was born as a child of a samurai in 1843, and studied hard to become both a good warrior and a good scholar. Gradually gaining awareness about Western culture and Christianity, he had a serious concern about the future of Japan and realized the importance of studying in Western countries.

Neesima left Japan for America in 1864, defying an overseas travel ban. Filled with anxiety and hope, he had begun his adventure. In Shanghai, he boarded a ship, the Wild Rover, bound for Boston.



### Neesima learned the Christian conceptions of conscience and liberty during his stay in America and made a strong commitment to establish a Christian university in Japan.

Under the benevolent support of A. Hardy, the owner of the Wild Rover, Neesima received baptism and studied at Phillips Academy and Amherst College. As he learned advanced Western science and technology and blended into American life, he realized that there was a deep-rooted spiritual background of Christianity in America.

He decided to become a minister himself, entering a seminary after graduating from college. The eight years of study at Christian educational institutions in America taught him the importance of conscience and liberty based on Christianity, which is to live according to the will of God and to exercise the freedom only within the realm of the conscience. Neesima returned to his homeland after ten years with a strong ambition to establish a Christian university as well as to spread Christianity.

**Above :** Neesima escaped the country and boarded a ship, the Wild Rover, bound for the United States

**Below :** Neesima showing some American people how he dressed when leaving Japan



### Conscience education and liberalism

#### Neesima defined 'conscience and liberty' as the Doshisha spirit

Upon returning to Japan, Neesima established Doshisha Eigakko (Academy) in 1875.

He wished not only to nurture individuals with diverse skills and abilities but also to nurture those who would put their conscience into practice, by cultivating a decent character with strong morality and mentality. He believed that a real democratic society could be established by respecting each person's individuality and at the same time a person must have conscience and liberty. In his last days, Neesima said "Those who teach students must treat them respectfully." His educational policy of respecting each individual student has been maintained at Doshisha over the years.

### "Grand Plan of 200 Years" shows Neesima's great aspiration.

Neesima died in 1890, at the age of 46, without fulfilling his ambition. However, his students and those who had the same ambition passed on his legacy and established Doshisha University in 1912.

In 2014, Doshisha celebrated the 139th anniversary of its founding. In order to realize Neesima's words, "Education takes 200 years to complete," we have been implementing ambitious reform programs, such as establishing new faculties and developing an advanced research system. However, our university is still on the road to achieving its mission. All faculty members and graduates, together with the students, are sharing an aspiration and making a collective effort to complete the university and to fully realize Neesima's vision.

### Doshisha Today

Campus reorganization taking place in April 2013 marked a major turning point for Doshisha University.

The liberal arts faculties have been integrated and moved to the Imadegawa Campus. Meanwhile, the Kyotanabe Campus has made a fresh start as a center for science and technology faculties, and integrated arts and sciences faculties. Each campus offers a complete environment for faculty education, and in this manner Doshisha strives to maximize merits as a university, cultivating a broad education in individuals who will become "The Salt of the Earth, The Light of the World."

Doshisha University makes good use of the best of Kyoto, a place blessed with the harmonious coexistence of arts and sciences, to advance our unique education and research programs, and to maintain our position as a university with international standing. At the same time, Doshisha endeavors to provide opportunity for meaningful exchange among students, faculty staff and researchers from all areas of the world.

## The purpose of the Foundation of Doshisha University (extract)

*At the end of 1874, I returned to Japan, a journey that I had dreamed about for more than ten years. I traveled with one great vision deep in my heart.*

*Upon returning to my country, I established Doshisha Academy. It was November 29th, 1875, the origin of today's Doshisha.*

*The purpose of founding Doshisha Academy was not only to equip students with a general knowledge of the English language, but also to cultivate in students virtue, enhance their integrity, and help them discipline their mind. In other words, we have made every effort to produce individuals who are able to put their conscience into practice. Such education can never be achieved only through intellectual education.*

*We placed Christianity at the core of the fundamentals of moral education, believing our ideal education can be achieved only by Christian moral teachings, which include devout faith, pursuit of truth and compassion for others.*

*There is no doubt that universities established by the Government are useful and valuable. However, it is certainly true that private universities also have an important role to play in society.*

*I believe it is a special characteristic and virtue of a private university that it nurtures independent and self-reliant people by bringing out their individuality.*

*It is not the power of a few heroes that maintains a nation. Education, knowledge, wisdom, and integrity are central to those who build and run society. We, at Doshisha, aim to produce individuals with such characteristics. It is ingrained in our ethos that our ultimate purpose lies in nurturing the people, who shall be called 'the conscience of the nation.'*

*Founder of Doshisha University,  
Joseph Hardy Neesima  
November, 1888*

## Doshisha College Song

(Words by W.M.Vories, 1908)

One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim:

To train thy sons in heart and hand

To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!

## Emblem of Doshisha

Adopted in 1893 Designed by Hangetsu Yuasa



The emblem of Doshisha, which consists of three triangles, is a stylized Assyrian letter meaning a nation or a land. It was designed by Hangetsu Yuasa, a poet and a scholar of the Ancient Orient, whom Doshisha produced. Hangetsu was a professor of Theology at Doshisha University when the emblem was made. Since then, it has been interpreted as a symbol of Doshisha's educational philosophy aiming at the harmony of three elements of education: intellectual, moral and physical educations.

### School Color of Doshisha

Our school colors are purple and white. The royal purple of Doshisha, which is a medium color between Tyrian purple and Edo purple, is the same school color as that of Amherst College in America where the founder, Joseph Hardy Neesima, studied. The field of the school flag is royal purple with the emblem in white.

## Contents

The Purpose of the Foundation of Doshisha University .....	E-1	Supporting Students' Life .....	E-12
Doshisha College Song, Emblem and School Color of Doshisha .....	E-2	Scholarships .....	E-13
Basis of Doshisha .....	E-3	Supporting Students' Career Goals .....	E-16
History of Doshisha University .....	E-5	International Exchanges .....	15
Academic Organization Chart .....	E-6	University-Industry Collaboration and Social Contribution and Academic Materials in the libraries .....	18
More Information on Faculties and Departments .....	E-7	Financial Status .....	19
Number of Students and Faculty / Staff .....	E-9	Introduction to Buildings .....	20
Education .....	E-10	Imadegawa Campusmap .....	21
Research .....	E-11	Kyotanabe Campusmap .....	23
		Access Map .....	25

# Doshisha University

a closer look  
2015

